

会 議 録

会議の名称		令和5年度 第1回つくば未来塾運営会議		
開催日時		令和5年(2023年)6月27日(火) 開会10時30分 閉会11時45分		
開催場所		つくば市役所4階 ミーティング室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中山正巳(座長)、永田孝男(副座長)、内野隆之 中嶋 修、岡野知樹		
	その他	なし		
	事務局	課長 澤頭 由紀子、課長補佐 色川 純子 係長 飯島 遊、社会教育主事 村上 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業概要説明 ・ 令和4年度実績報告 ・ 令和5年度実施計画 		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 主 催 者 挨 拶 3 運営会議委員及び職員紹介 4 座長及び副座長選出 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業概要説明 (2) 令和4年度実績報告 (3) 令和5年度実施計画 			

6	その他
7	閉会

<審議内容>

事務局（飯島係長）：本日はお忙しい中、本運営会議に御参加いただきましてありがとうございます。ただいまより令和5年度第1回つくば未来塾運営会議を開催いたします。

この会議に関しましては、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第3条に基づき、公開の会議とさせていただきます。会議録につきましては、後日、つくば市のホームページの方に掲載させていただきますので、どうぞよろしくお願いいいたします。では、はじめにつくば市教育局生涯学習推進課課長の澤頭から御挨拶申し上げます。

よろしくお願いいいたします。

事務局（澤頭課長）：皆さんおはようございます。生涯学習推進課課長澤頭でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。本日は御多用の中、つくば未来塾運営会議に御出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様の上に、恐れ入ります、委嘱状を置かせていただいております。皆様本日から今年度末までの任期で委員を委嘱させていただいております。どうぞよろしくお願いいいたします。

この未来塾なのですが、平成21年度から放課後学習チューター事業として、市内全中学校へ学習チューター派遣しまして、中学生を対象とした学習支援を行ってまいりました。平成27年には、国や県の補助を受けまして、名称を現在の「つくば未来塾事業」に変更し、令和2年度からは、学び推進課から生涯学習推進課へ事業が移管しまして、継続しております。現在に至るまで、14年間の継続となっております。

改めてとなりますが、この未来塾の事業の目的ですが、中学生の学習上のつまずきを解消しまして、基礎学力の向上と子供たちの学ぶ意欲の向上、これらを目指すものであります。そのために学習支援のボランティアの確保ですとか、そのボランティア方々の質の向上、学校においての実施時期や内容の適否など、様々な検討すべき課題がございます。そこで運営会議の委員の皆様は、多方面にわたる御助言をいただきながら、この事業のさらなる充実を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、コロナウイルス感染症が5類に移行しましたので、体制としましては、コロナ以前の実施体制に戻って行っていきたいと考えております。

それでは、本日は未来塾の円滑な事業の実施に関しまして、皆様から多くの御意見や御指摘、御助言をいただきますようお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

自己紹介

事務局（飯島係長）：それでは、配付資料の確認をさせていただければと思います。お手元にお配りした資料、過不足ございましたらお声かけいただきたいと思っております。

まず、こちら令和5年度第1回つくば未来塾運営会議次第です。

続きまして令和5年度つくば未来塾事業概要についてという両面刷りの資料がございます。

続きまして、A3カラーで、令和4年度つくば未来塾事業実績といった、ホチキス止めで三枚つづりの資料がございます。

続きまして、両面カラー刷り2枚、ホチキス止めの資料。つくば未来塾学習チューター募集のチラシと、それから2023年度つくば未来塾、事業計画、実施計画一覧2枚つづりの資料です。

続きまして両面刷り 1 枚両面刷りで、令和 5 年度つくば未来塾、事業運営会議開催要項です。

最後に、令和 5 年度第 1 回つくば未来塾運営会議委員名簿です。

それと未来塾運営会議の委嘱状をお配りしています。

過不足等ございましたら事務局にお申し付けください。

では、続きまして座長の選出に移りたいと思います。本運営会議開催要項第五条の規定に、座長は委員の互選により定めると規定されておりますので、早速ですが、座長の選出方法について、御意見等ございましたらお願いいたします。

中嶋委員：はい。事務局に一任します。よろしく申し上げます。

事務局（飯島係長）：はい、ありがとうございます。ただいま事務局案等のお声をいただきましたので、委員の皆様、よろしいでしょうか。

委員：異議なし。

事務局（飯島係長）：異議なしの声がございましたので、事務局案で、「つくば市青少年相談員連絡協議会」会長の中山委員に座長をお願いしたいと考えております。皆様よろしいでしょうか。

委員：はい。お願いします。ありがとうございます。

事務局（飯島係長）：では座長の席札の配置をお願いいたします。

事務局（飯島係長）：それでは座長に就任されました中山委員よりご挨拶をお願いしたいと思います。

中山座長：つくば未来塾事業を進めていく、大切な会議かと思えます。御協力をお願いします。

先日テレビ東京のアド街ック天国というテレビ番組の中で、つくば市が紹介されて、日本一のマンモス学校、学園の森義務教育学校で実施されたギネス認定の「だるまさんが転んだ」の紹介がありましたね。

また、私が設計した、18 位のカスミ（ブランデ）学園店、11 位で紹介された

湯〜ワールドなどが紹介されていました。実は、この番組を私は見逃したのですが、見逃し配信で視聴することができました。便利な時代になったと思います。

また、チャット GPT という非常に優れた、生成 AI の力を使った授業が今朝ほど小学校で取り入れられているとことで、新聞にも取り上げられていました。

「便利になってきたな」という反面ですね、やっぱり、こつこつと勉強しないと。身にはならないのかなとも思います。学習チューターを活用して今復習しながら、やっていくと、やっぱりそれが成長に繋がるのだと思います。子供たちの学習能力が上がっていることもあって、この事業が存続しているのだろうと思います。座長ということで、務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

それでは、早速、副座長の選出を行いたいと思います。

副座長は座長と同様に委員の互選ということになりますが、委員の選出について御意見などはありますでしょうか。

委員：座長に一任します。

中山座長：はい、ありがとうございます。座長一任ということでございましたので、私の方から、異議がなければ選出させていただければと思います。

それでは副座長は、現在、秀峰筑波義務教育学校の校長及びつくば市校長会で副会長を務めておられる、永田先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

委員：はい。お願いします。

中山座長：ありがとうございます。副座長に永田先生、よろしくお願い致します。

それでは、副座長より御挨拶いただきたいと思います。

永田副座長：副座長の方に御指名いただきました永田です。どうぞよろしくお願い致します。

つくば未来塾事業の方では大変お世話になっておりまして、中学校また義務

教育学校の後期課程の生徒にとっては非常に学習意欲とか、それから基礎学力の定着に、随分効果があるなというように感じております。何より子供たちが、やる気を持って取り組んでくれることを大変嬉しく思っていますし、このような機会をいただいて、本当にありがたく思っています。

どうぞよろしく申し上げます。

中山座長：はい。ありがとうございます。それでは、次第に従いまして議事に入らせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、「事業概要」「令和4年度実績報告」「令和5年度事業計画」につきまして、事務局の方でお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：

それでは、私からつくば未来塾事業の概要について御説明をさせていただきますと思います。

資料次第をめぐっていただきまして、令和5年度つくば未来塾事業概要についてというA41枚の資料をご覧くださいと思います。

つくば未来塾事業の目的ですが、近隣地域の大学や地域ボランティアの御協力を得て、つくば市内全中学校及び義務教育学校（後期課程）の生徒に対して、学習指導・支援に当たることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図ることを目指すものです。

また、概要図に示されていますように、学校と地域とが連携することで、未来を担う次世代の力を育てることも、目的とされています。繰り返しになりますが、実施対象者はつくば市立の中学校及び義務教育課より7年生から9年生であります。

学習チューターの協力対象者は記載されている通りなのですが、特に筑波大学の学生の方々には、全体の40%弱の参加をしていただきまして、連携を図ることができています。昨年度は180人近くの申し込みがありまして、90人近く筑波大生の方々に御協力いただいております。実施内容としましては、

5教科を中心に学習の指導及び助言に当たっていただいています。

最後に、実施時期及び実施時間については各学校の実態に応じて工夫して実施をしていただいております。

私の方から以上です。

事務局（飯島係長）：はい。では、続きまして私の方から、令和4年度つくば未来塾事業実績について御説明させていただきたいと思います。この用紙の1枚目の部分について、御説明させていただきます。

まず、こちら一番上にございます、実数と経年比較、こちらの要点を説明させていただきます。表の一番上にございます、実施延べ時間。また、その次に、実施延べ日数を御覧いただければと思います。こちら、令和2年度、3年度と比較いたしますと、実施時間につきましては、令和2年度が885時間、令和3年度は906.5時間、であるのに対して、令和4年度は1,380時間となっております。

また日数については、令和2年度が137日、令和3年度が123日、令和4年度が161日となっております、こちら令和2年度、3年度で影響を受けた新型コロナウイルス感染症、この影響が徐々に薄れ感染拡大前の状態に戻りつつある傾向が伺えます。

続きまして、表にあります、全チューター協力延べ人数、また、その下にあります学生協力延べ人数、筑波大生、大学院生延べ人数、筑波大以外延べ人数、につきましてはの御説明になりますが、こちら一昨年と比較しますと、回復傾向となっております。

また、筑波大生、大学院生の延べ人数ですが、先ほど村上からも説明がございましたが、こちら全体の3分の1以上を占めており、特に筑波大生を中心とした、地域人材の活用という点で貢献できているかと考えます。

また資料にございます参加生徒延べ人数ですが、こちら実施延べ時間、実施延べ人数とともに、回復傾向が伺えるかと思えます。

また、学習チューター登録数についてですが、こちらは、令和4年度は176人となっております。この内訳でございますが、表右側の枠外でございます、筑波大学62人、筑波大学院17人、他大学25人、一般72人の登録値の合計となっております。学生の割合が高いことが伺えますが、一方で、一般の方の登録も4割程度いらっしゃるということがお分かりになるかと思えます。

続きまして、平均値と経年比較について御説明させていただきます。この表では、チューター1人当たりの活動日数、1日当たりのチューター数、チューター1人当たりの担当生徒数、生徒1人当たりの参加回数、1日当たりの参加生徒数の推移が分かります。こちらの表につきましても、やはり新型コロナウイルスの影響から回復傾向にあるということが確認いただけるかと思えます。

続きまして、予算執行率の説明に移りたいと思えます。

例年、予算編成につきましては、予算の執行率が当初の想定を下回った部分について、例えば、新型コロナウイルスの影響で、事業のキャンセルがあったという場合に、令和5年3月議会において予算の減額補正というものを行っております。

こういった事情がございますのでこの表においては、予算執行率、当初予算と予算執行率、3月補正後の2列に分けて掲載させていただいております。この中で、特に予算の執行の大部分を占めるチューター謝礼、報償費という部分につきましてもですが、こちら枠外右側の備考欄でございますように、筑波大生のインターン事業として参加したチューターあるいは、謝礼の受け取りを辞退したチューターなど、こうした謝礼を支払わないチューターを除いた実施延べ時間、1,316時間。これに謝礼の支払い単価である1時間、2,000円を掛けた金額。263万2千円となっております。こちら決算額265万円との差額ですが、残りの額につきましては、未来塾運営会議委員の方に対する謝礼の支払いとなっております。

また下の段、需用費につきましては、各学校で購入した学習支援用のテキスト

トあるいは、授業学習支援に使う消耗品の合計額、またその下の旅費は主にチューターの移動にかかる交通費、その下の役務費についてはチューターの移動等の際に、万が一事故があった場合の傷害保険の加入料となっております。

続きまして、平成 25 年度からの推移について御説明いたします。こちら予算執行に関する経年変化のデータをまとめた表になります。表の一番右側の黄色い部分が、令和 4 年度に関する結果となっており、一番右側の 3 月補正後、こちらの予算全体の執行率が 83% で予算の 8 割を超えていることや、また、昨年度の補正後の予算執行率が 78% であったことに対して、これと比較しても、高い数値であることから、適切な予算執行が行われていると考えております。

私からの令和 4 年度つくば未来塾事業実績についての説明は以上となります。

ただいまの説明内容につきまして、不明点、または疑問点等がございましたら後程の質疑の際に、ご質問いただければと思います。

続きまして、再度、村上の方から令和 4 年度つくば未来塾事業の成果について御説明をさせていただきます。お願いいたします。

事務局（村上社会教育主事）：令和 4 年度つくば未来塾事業の成果について御説明させていただきたいと思っております。1 枚おめくりいただきまして、各学校から上がっているアンケートについて御覧いただければと思います。たくさんのアンケートご意見いただいております。

生徒の学習上のつまずきに解消についてですけれども、先生方のアンケートから一部抜粋したいと思います。

「分かるまで丁寧に教えてくれた。困っているとすぐに声をかけてくれた。」

「普段の授業では質問することが苦手な生徒たちが、自ら学習チューターの方に声をかけ、学習している姿が見られた。」

「分からない問題や苦手な教科について生徒が納得いくまで質問することができた。」

「1人では取り組みにくい、学習に集中できる環境や苦手なところをフォローしてもらえる環境がありがたかった」

などの前向きな感想をいただいております。

つくば未来塾事業を通して、個のニーズに応じた学習支援を行うとともに、参加生徒が学習チューターとの関わりから学習意欲の向上に繋がる姿も見られたと考えております。

また、アンケート結果では、「生徒アンケートから今までより学力が身についたと思うか」の質問には83.2%。教職員アンケートにおいては、「生徒はグループが身についたと思うか」の質問には81.4%とR3年度よりも高い数値を生み出すことができています。

裏面をめくっていただいて、次のページになります。学習意欲の向上に関してです。昨年度は新型コロナウイルス感染症防止対策が少しずつ緩和をしてきましたが、未だ人との交流の場が減少している状況も見られました。つくば未来塾に参加することをきっかけに、学習チューターだけでなく、友人との交流を通して、情意面の数値が高くなって考えています。

また昨年度は、つくば未来塾を予定どおり実施できた学校が増えました。「今までよりも取り組んだ教科が好きになったか。」というアンケート結果については、R3年度より10%以上数値が上がっています。つくば未来塾を通して、生徒が主体的に学習を進める機会が増えたことも要因の一つだと考えております。

学校と地域の協働連携に関してですが、教職員のアンケートについて、2段目のところですが、「生徒が学習チューターと学習したことはよかったか」の質問について、高い数値を生み出しています。つくば市では、コミュニティ・スクール導入に向けて順次計画を進めているところではありますが、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域の人的資源の活用に関して、教職員の意識が高まってきたことが要因だと考えております。

続きまして令和5年度の事業計画について簡単に御説明をしていきたいと思
います。

今年度は5月15日（月）から6月16日（金）の間で学習チューターの申し
込みを行いました。こちらの学習チューターのチラシ、学校や交流センターに
お配りしているものなのですが、御覧いただければと思います。

今年度5月15日（月）から6月16日（金）の間で学習チューターの参加募
集をかけました。現在、申し込み人数は145名となっています。

今年度つくば未来塾学習事業は、6月26日から令和6年1月31日の期間で
実施される予定になっております。そちらの予定が、こちらのチラシにも各学
校の日程の方が入っております。一番早い学校で言いますと、実は昨日、6
月26日（月）から手代木中が実施しています。

4月中旬には筑波大学の教育学類の学生に向けて、未来塾の説明、それから
協力の依頼をして参りました。また、今後の日程ですけれども、7月5（水）
に学習チューターの参加者に向けて、事前のオリエンテーションを行い、注意
事項等を話す予定となっております。

私の方からは以上です。

中山座長：はい。ただいまの今年度の事業報告など、御説明をいただきました。
皆さん、説明していただいたことに対して、御質問などございますでしょうか。

内野委員：学習チューターは、もし継続の場合にも、毎年、登録するものなの
でしょうか。

事務局（村上社会教育主事）：毎年、御登録はしていただいております。ただ、
学校からも、継続して同じ方に来ていただけると、子供たちの信頼関係にも繋
がるという御意見をいただいております。ですから、昨年度、つくば未来塾事
業に参加していただいた方宛に、つくば未来塾の募集を今年度開始したという
旨、メールにて御連絡させていただいて、継続してつくば未来塾への参加協力
をしていただけるようなアナウンスさせていただいております。

内野委員：中学校への派遣先の割り振りについてですが、地域の方は多分、その近くの中学校のチューターになるのだと思うのですが、筑波大生とかだと、それはどのように振り分けをされているのですか。

事務局（村上社会教育主事）：はい。まず、電子申請や登録用紙の方に御記入いただくことで、参加者の希望を取りまとめて配置をさせていただいています。

実態からお話しますと、筑波大生の方は交通手段の兼ね合いもあり、自宅から遠くの学校までは参加できないという方も多いので、中心部というか駅に近いところの学校を希望するような傾向があるかなというように感じております。

内野委員：筑波大から遠いところは、各々の地域の方が担当されているということですか。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。ただ、それはそういう時ばかりではなくて、車をお持ちで、積極的にどの学校でも行ってくださるっていう学生の方だとか、あるいは一般の方も、どこにでも行きますと言ってくる方もいらっしゃるので、そこで、御希望を確認して、配置させていただいています。

中山座長：

その他、どうでしょう。

ないようでしたら、教育の現場の秀峰筑波義務教育学校の永田先生いかがでしょうか。

永田副座長：本校では、夏休みに限ってということで、つくば未来塾を実施しているのですが、子供たちも参加者は、結構おりました、この後、部活動をやったりとか、お弁当を持ってきたりしながら、実施しているような形です。あとはやっぱり、本校はバスで登校している子供たちが非常に多いので、後期課程の場合には、3台ほどになりますけども、そういう関係で、夏休みあたりには集中的に子供たちが参加して学習しています。

中山座長：中嶋委員。何かありませんか。

中嶋委員：はい。私も元教員なので、恩恵を受けていた方ですけど。

夏休みの集中講義的にやるのが良いのか、もう少し年間通して、そういう勉強を教えてもらえる人が、学校へ来て中学校に来てやってもらう流れの方が良いのかということ、今考えながら聞いていたんですけど、学校の実態を見ると、夏休みの集中講義が多い感じですね。年間通してっていう。例えば、この資料で見ると手代木中は年間を通して計画されていますね。一方で高山中を見ると、8月の3日間で10人の学習チューターを派遣して、集中的に実施する予定となっている。そのようなことが校長先生のお考えなのか、それは生徒側の要望なのか。子供たちにとっては、この集中型で良いのか。年間通して、見てももらえる方が良いのか。学校の校長先生のお考えで決めるのだろうと思うのですがね。その辺の実態は、どうなのかなというちょっと感想というか、そういうところを思いました。

中山座長：それについて、事務局の方ではどうですか。

事務局（飯島係長）：はい。まさにおっしゃいますように、確かに全体的な傾向といたしましては、夏休みあるいは、冬季休業中の集中講義が多いのですが、確かに学校によっては、本当に校長先生の考え方で、年間通じてやるというところもございまして、当課といたしましては、なるべくその学校のスケジュールというか、方針を尊重してスケジュールの方を組ませていただいているような形にはなります。

中山座長：夏休みが、だいぶ多いのですかね。秀峰筑波義務教育学校は、バス通学が難しいですよ。帰り、下校時間がありますから。

永田副座長：普段は、そうですね。

中山座長：うん。バスがなくなってしまうから。自転車通学の子たちは良いですけど。

永田副座長：子供たち、それから職員の声の聞いていると、やはり、それに慣れているということもありますけれども、2時間なら2時間というふうに集中

して実施してもらった方が、先生方も子供たちも、良いつていう声は挙がっていますね。そうすると、やはり長期休業中かなつていう。

内野委員：放課後に実施する場合は、部活動のない日に行われるのですか。部活動入っている生徒も多いでしょうから、部活動が重なっていたりするとどうなるのでしょうか。

また、本事業の目的としては、基本的に学習についていけない子供たちのレベルを底上げするつていうことであつて、成績が良い子供たちが、更に何かを学びたいからこの未来塾に参加するつていうことはできないつていう理解で良いですか。

事務局（飯島係長）：できない、つていうことはないです。特に参加者、生徒さんの参加者を学力によって絞っているわけではないので、成績の良い子であっても、参加したいつていう希望があれば、それに参加することは可能です。

内野委員：実際そういうケースはあるのでしょうか。

事務局（村上社会教育主事）：学校の現場を見ていると、もちろんチューターの方に教えていただいたりすると、学力向上することもあるのですが、学習に意欲的な子たちは黙つていても集まるような傾向もありまして。

ただ、その少ない人数の中で、学習チューターの方から教えていただいたり、あるいはその友人関係の中で、学び合いをしたりしている様子も見られます。

後は、実施の期間についてなのですけれども、部活動がない、テスト休みの期間とかに、未来塾事業を入れている学校が多いと感じます。

内野委員：「学習についていけない生徒の学力の底上げ」という場合は、先生の方からその生徒に参加を声掛けする形ですか。参加がすべて自発的なものだったら、勉強嫌いな子はそもそも参加しないつて思うのですが、その辺は実際に、どうされているのでしょうか。

事務局（村上社会教育主事）：学力がちょっと厳しいから未来塾に参加しておいでつていう声掛けは難しいつて思うのですけれども、「こういう事業があつて素

晴らしい先生が来てくれているから、やってみるといいよ」みたいな声掛けはしていると思います。

内野委員：「それで行っても良いな」と思う生徒は参加するでしょうが、やはり、勉強嫌いな生徒は行かないってことですよね。

事務局（村上社会教育主事）：テスト前なんかですと、家で勉強するよりも、教えてもらった方が良いかなというような前向きな意見で参加している生徒はいます。

内野委員：未来塾は、例えばチューターの方が1人来て、生徒が10人ぐらい集まるようなイメージですよね。集まった生徒に学力差があった場合は、チューターはどのように対応しているのでしょうか。また、形式としては、自習をやって分からないところをチューターに聞くという形か、あるいは授業みたいな形でやっているのか、どうなのでしょう。

中山委員：その辺どうでしょうか。この事業成果について、事務局サイドで、残しておいたほうが良いものはありますか。資料を見てみると学習チューターの方には質問しやすいのかな。という感じがしますよね。

事務局（村上社会教育主事）：おっしゃるとおりやっぱり少人数で実施しているところが、多いと思いますので、自習のような形でも質問しやすいっていうところがあったり、あるいは学校の方でちょっと工夫をさせていただいたりして、最初の時間5分ぐらいは、チューターさんの自己紹介をさせていただいて、そこでコミュニケーションを図ってから質問しやすい雰囲気をつくって、未来塾の時間にはいるということで、お互いに質問しやすいとか、コミュニケーション取りやすいような関係を作っているようなところもあるようです。

内野委員：学校によって、やり方やその授業形態が変わってくるのでしょうか。集まった子供たちの状況にもよると思うのですが、学校がこうしてくださいという要望を受けて、チューターはそれに従って行うというイメージですかね。

事務局（村上社会教育主事）： はい。そのような形です。

永田副座長： よろしいですか。基本的には学校の方でこのような事業があるよっていう話とか、あと普段から生徒との会話の中で、このような機会があったら良いのではないというような声掛けはもちろん、個人的に強制ということではなくて、そのような形でやっています。それから、本校で夏休みに集中してやるのには先ほどから出ているチューターさんとの人間関係とまでは深いところまではいきませんが、やはり続ければ、例えば2時間とかいてくれば、段々、慣れてきて、特に学生さんなんかについては若いので、親しみも持てるし、そういう形で段々こう、自分のそれぞれの勉強での疑問点とか、ちょっと、ここ聞きたいなっていうのを中心に聞けるような感じになっています。

ですから、本校では夏休みに集中して実施しているわけなのですが、子供たちは、段々といつも去年の感想をみても日にちが経つにつれて、時間が経つにつれて、質問をしやすくなるっていうようなことは言っています。そこに中学校の担当の教員ももちろんついておりますので、そのような形で進めています。

中山座長： 学び推進課の岡野課長はいかがでしょう。

岡野委員： 学校の各取組が実情によって様々なところは分かりました。今、委員の皆様からも出ていたような時期的な問題ですとか、あとは子供たちへの声掛けの仕方ですとか、流し方、周知の仕方みたいところは、学校間で共有し、各学校の情報を得て、他にも参考になるようなこととか、その辺の情報共有のあり方のところはどのような感じなのでしょう。担当者同士で情報を共有する場面とか何かの機会とかはありますか。

事務局（村上社会教育主事）： つくば未来塾事業の学校の反省の中で情報を共有したいという御意見はいただいています。

岡野委員： 敢えて、皆さんで集まってとか、話し合いの場を持つということではなくても、こういった資料を共有していただいて、それぞれの学校の実情に

合わせて、子供たちのためになるような取組を推進していただけるとありがたいなと思います。

事務局（村上社会教育主事）：ありがとうございます。

事務局（澤頭課長）：ありがとうございます。他の事業でも、やはり実施した後が大事だという御意見は確かにいただくところでして、実施した後、自分たちはこういうやり方で、学園ではやっていくけれども、他の学園のやり方を知った時に、ヒントになる部分が確かにあるっていうご意見も、他の事業でありますので、そういったところも含めて考えさせていただきたいと思います。

中嶋委員：需要と供給じゃないですけどその辺のバランスはどうなのですか。学校からも、もっと人数が欲しいとかもっと時間やって欲しいっていう学校の体制なのか。それとも、チューターさんが多すぎて、それをどう配属するかっていう問題が出てくるのか。それとも均衡が取れているのか。その辺がどうなのですかね。

事務局（飯島係長）：先ほども説明があったのですが、やはり筑波大生とかですと、どうしても駅近くの学校っていうところに集中してくる傾向はありまして、そうなってくると、やはりその学校に対しては、需要に対して供給が上回っている状況は見られます。ですから、可能であれば、第2希望、第3希望の方の学校で、お願いできないか、頼んでみたりしています。それから、学校によっては、本当に熱心な学校ですと、もっと増やして実施したいというお声もあります。逆に学校の行事とかで、中止になってしまっているというところもありますので、そこは予算の関係上も、チューターの関係上もその予算の範囲で可能な範囲であれば、少し授業枠を増やしてというところも、対応はさせていただいています。

中嶋委員：つくば未来塾事業は、予算的にはこれから増やしていったほうが良いような事業なのか。予算がもっと増やしてもらえるような可能性があるのか。可能性があっても、学校で更に時間増やして欲しいという要望があるのか。現

状の予算ぐらいで良いのか。など、つくば市では、把握はしておりますか。

事務局（飯島係長）：そうですね。当初にやはり予算の枠でスケジュール組んでいただいているというところもあるのですが、結果としては毎年度、当初のスケジュールに対して、その執行率が大体80%から90%くらいとなっています。本当に学校によって、もっと実施したいというところと、そこまでではないというところありますので、予算措置としては、ひとまず、現状維持で良いのではないかなど。担当の考えとしては、持っています。

中嶋委員：実施回数を増やして欲しいという要望が強くなるわけではなく、現状維持ぐらいでということですかね。

事務局（飯島係長）：はい。仮に要望があった場合には、他の学校が中止した部分から、予算を差し引きで補填ということが可能なので、今のところはそれに対応できています。

中嶋委員：学校間のバランスというのは、要望が多いところには対応し、それほど、要望がないところには派遣しないっていうか、その辺は考慮しているのですか。それとも、要望が多いところには、もうとにかく要望に近いものを与え、特に要望がなければそれは別に無理強いするのではないっていうスタンスなのですか。その辺はいかがですかね。

事務局（飯島係長）：そうですね。そちらに関しては、やはり学校で組める体制というのがあるかと思しますので、少ないから増やしてというような声掛けまではしていませんね。

中山座長：事務局の方では、統計とかはとっているのですか。参加人数一覧とか。

事務局（飯島係長）：はい。とっています。

中山座長：マンモス学校とそうでない学校で人数割りしたら、違う感じもするし。それを、学校で実施した統計の数値はないですか。

事務局（飯島係長）：そうですね。未来塾事業のスケジュールの立て方なので

すけれど、一応予算の範囲がありますので、一番最初の6月時点で、この各学校から計画をいただく時点では、まず、各学校一律90時間という枠で立てさせていただいて、その結果としては昨年度、1年間通じてやってみたところ、何時間やったかというところは、ちょっと各学校、様々でして、90時間ぴったりのところもありましたし、行事と重なってしまって、60時間とか、40時間だったというところもあります。逆に熱意があつてというか、これはちょっと例外的なのですが、つくば未来塾を多く実施したいというところで、100時間を超えたところもございます。

中山座長：原則90時間なのですね。

事務局（飯島係長）：はい。そうですね。

中山座長：あと、もう一つ、これ事業計画の中で、研究学園中学校が増えましたよね。

事務局（飯島係長）：はい。研究学園中学校が今年度から追加されました。

中山座長：その他、何かございますか。よろしいですか。

学習チューターとは別ですけれども。学び推進課、岡野課長にお聞きしたいのですけれども、校内フリースクールは、今どういう状況ですか。運営は、やっぱり、不登校は同じ学校だと抵抗があるのかなとも思うのですけれども。

岡野委員：設置につきましては、各中学校と義務教育学校の後期課程は全校設置です。生徒の場所もなるべく、他の友達とは会わないような動線を工夫しています。また、活動場所についても学び推進課と学校で協議しながら現場を実際に見て検討しています。

校内フリースクールが始まるにあたりまして、中学校については、各学校人数に差はありますが、今まで来られなかった生徒が登校できているという状況が、多くの学校から寄せられています。現在の所、良いスタートが切れたかなと思っています。

中山座長：脱線した話ですみませんでした。

その他、何か事務局で声掛けすることはありますか。

事務局（澤頭課長）

はい。

未来塾の事業なのですけれども、子供たちの学びを見守っていくっていうところもあるのですけれども、教えていただく方が、筑波大の学生さんだったり自分たちが近いお兄さんお姉さんに教わることができるということで、勉強以外にも、ちょっとした普段の悩みですとか、将来のこと、そういったことを聞けて、楽しいのだったというところも、アンケートからいただいておりますので、そういった学習のつまずき以外のところで副次的な効果をもたらしているという、とても良い事業かなということで、是非ともこのまま継続していきたいなというのを申し添えたいと思います。

中山座長：はい。内野さん。

内野委員：学習チューターは180名募集の中で90人ぐらいっていうお話だったので、それは、生涯学習推進課で採用審査を行うのですか。

事務局（飯島係長）：特段審査というところは、しておりません。一応ですね、こちらでチューターどの学校に派遣するっていうと、決めた上で、各学校さんと事前にやりとりはしていただいて、そこで得意教科であるとか、そういったところの調整をするのですが、特段、審査とか面接とかいったことはやってない状態ですね。

内野委員：そうすると、希望すれば、誰でもなれると。

事務局（飯島係長）：はい。そうですね。誰でもなれるというところもありますので、チューター対象者としてガイダンスとかでも、説明会とかも行わせていただいているのですが、例えば、チューターが生徒さんと私的に連絡を取ったりしないようにとか、そういうところの注意は、させていただいている現状ではあります。

ただ、広く一般の方に参加していただくというところもありますので、事前

の特段のふるい分けみたいなのはしてない状況です。

内野委員：この180人中の90名っていう人数は、それ以外は都合が合わないなどで辞退されたということですか。

事務局（村上社会教育主事）：すみません。私の説明が不明確なところがあったと思うのですが、180人中90名ぐらいの人数というのは、筑波大の学生の方が協力してくれた人数を御説明させていただいたものです。

内野委員：筑波大生のチューター人数ということなのですね。

村上社会教育主事：そうです。すみませんでした。

中山座長：もう1点ちょっと聞きたかったところがあるのですが、一般の年齢層がどのぐらいですか。

事務局（飯島係長）：はい。様々ですが、比較的多いと思われるのは、やはり現役を退かれた方で、自分の持っている知識とかがあるので、教えたいという。結構年配の方が多く印象はあります。あとは主婦の方ですとかですね。あとは、社会人の方とかで、空いている時間で教えたりとかっていう方もいらっしゃいます。

中山座長：謝礼辞退っていうのは、1人ですか。1人だけ、いらないよっていう人もいたのですね。

事務局（飯島係長）：そうですね。こちらはですね、確認したところ、現役の公務員でして、二重取りになってしまうので辞退するというお話を聞いております。

中山座長：あと、よろしいですか。それでは時間ちょっと早いのですが、スムーズな進行に御協力いただきありがとうございました。最後にその他ということで、事務局に返したいと思います。

事務局（飯島係長）：はい。皆様、様々なご意見ありがとうございました。

次回の運営会議の日程について御説明したいと思います。第2回は少し期間が空きますが、令和6年3月12日、10時30分から11時45分。同じ4回の会

議室401での実施を予定しております。

なお、3月は議会の開催中となりますので、仮に万が一、日程変更等があった場合は、事前にご連絡したいと思います。

また会議開催のおよそ1ヶ月前には、書面で通知を差し上げたいと思います。

それでは、以上で令和5年度第1回つくば未来塾運営会議を閉会いたします。

皆様、どうもありがとうございました。

委員：ありがとうございました。

令和5年度第1回つくば未来塾運営会議 次第

日時：令和5年(2023年)6月27日(火)

午前10時30分～11時45分

場所：つくば市役所4階ミーティング室

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 運営会議委員及び職員紹介
- 4 座長及び副座長選出
- 5 議 事
 - (1) 事業概要
 - (2) 令和4年度実績報告
 - (3) 令和5年度実施計画
- 6 その他
- 7 閉 会

令和5年度 第1回つくば未来塾運営会議 委員名簿

1. 委員

	所属・役職等	氏 名
1	つくば市PTA連絡協議会 会長	内野 隆之
2	つくば市青少年相談員連絡協議会 会長	中山 正巳
3	青少年を育てるつくば市民の会 会長	中嶋 修
4	つくば市学校長会 副会長 秀峰筑波義務教育学校 校長	永田 孝男
5	教育局 学び推進課 課長	岡野 知樹

2. 事務局職員

	所属・役職等	氏 名
1	教育局 生涯学習推進課 課長	澤頭 由紀子
2	教育局 生涯学習推進課 課長補佐	色川 純子
3	教育局 生涯学習推進課 係長	飯島 遊
4	教育局 生涯学習推進課 社会教育主事	渡邊 亮太
5	教育局 生涯学習推進課 社会教育主事	村上 和宏

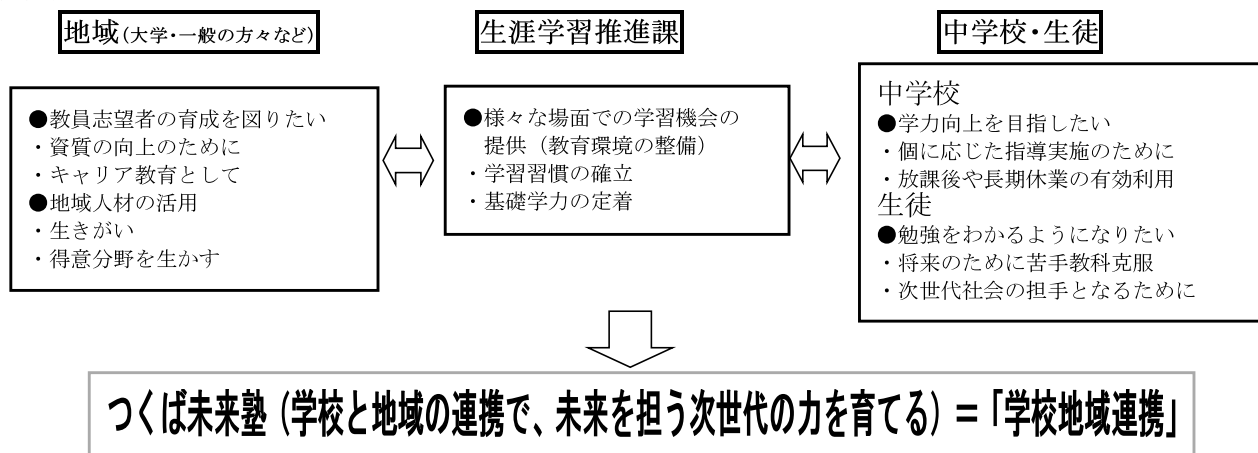
令和5年度 つくば未来塾事業概要について

1 目的

つくば市内及び近隣地域の大学や地域ボランティアの協力のもと、参加する大学生、大学院生や社会人の方などを学習チューター(学習助言者)としてつくば市内全中学校及び義務教育学校(後期課程)に派遣し、学習指導・支援にあたることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図る。

2 つくば未来塾とは・・・(27年度までは「放課後学習チューター」事業として展開)

(1) 概要図



3 実施対象者

つくば市立の中学校及び義務教育学校に通う、7年生から9年生までの生徒

4 学習チューター協力対象者

- (1) つくば市内及び近隣地域の大学生または大学院生
- (2) つくば市内小・中・義務教育学校の教育実習生
- (3) 地域ボランティア(社会人)

※謝礼 2,200 円/時間(本年度より交通費は支給しない)

5 実施内容

各学校に派遣された学習チューターが、中学校・義務教育学校職員とともに、5教科(国・社・数・理・英)を中心に、学習の指導及び助言にあたる。

6 実施時期及び実施時間

(第Ⅰ期) 夏季休業中に1日2～3時間程度。

(第Ⅱ期) 5月～7月及び9月～1月末までの平日放課後に1日1時間程度。

(2) アンケート結果など (はいと答えた割合)

*生徒たちの感想と成果 (参加人数 延べ 7,099 名)

	令和4年度	令和3年度
楽しく学習が進められましたか?	90.8%	90.0%
チューターに教えてもらってよかったですか?	86.0%	86.2%
今までより学力が身に付いたと思いますか?	83.4%	78.0%
今までより取り組んだ教科が好きになりましたか?	69.9%	59.3%
これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか?	87.6%	84.7%

*学習チューターの皆さんの感想は?成果は?

	令和4年度	令和3年度
生徒と楽しく学習が進められましたか。	97.7%	93.0%
チューターとして「つくば未来塾」に参加してよかったですか。	92.1%	86.7%
チューターとして生徒の喜ぶ姿に出会いましたか。	97.2%	89.8%
チューターとしてやりがいを感じましたか。	96.0%	90.6%
今後つくば市の事業において、ご協力いただけますか。	95.5%	93.8%

R4年度は、チューター登録者 176 名 (R2 より 49 名増、R3 より 1 名減)、
のべ活動人数は 685 名 (R3 より 184 名増) でした。
「教育実習をきっかけにして・・・」「将来教職を目指したいので・・・」



・「延べ参加生徒」 R2 7,099 人 → R3 8,248 人 → R4 8,926 人

※新型コロナウイルス感染症対策を各学校で行っていただき、各学校の実情等に応じて、広い会場で実施したり、実施時間を午前と午後に分けたりして実施した。

・昨年度より オンラインでの実施を可とした。

令和4年度
つくば未来塾事業実績報告書



令和5年(2023年)3月14日(火)
つくば市教育局 生涯学習推進課

令和4年度つくば未来塾事業実績

1 実数と経年比較

		R4	R3	R2	R1	H30		
O	実施延べ時間(時間)	1380	906.5	885	1243	1149	筑波大学	62人
A	実施延べ日数(日)	161	123	137	212	194	筑波大学院	17人
B-1	全チューター協力延べ人数(人)(含謝礼対象外)	685	501	605	641	588	他大学	25人
B-2	学生協力延べ人数(人)	295	272	348			一般	72人
※B-3	筑波大生(筑波大学院生)延べ人数(人:含謝礼対象外)	232	224	247			謝礼辞退	1人
※B-4	筑波大以外延べ人数(人)	63	48	101			謝礼辞退授業数	2回
C	参加生徒延べ人数(人)	8926	8248	7099	11851	11629	時間数(謝礼辞退)	5H
D	学習チューター登録数(人)	176	177	127	163	120	インターン参加人数	7人
E	中学校・義務教育学校 在籍数(人)	6608	6694	6398	5931	5862	インターン授業数	24回
							時間数(インターン)	59H
							時間数(謝礼対象)	1316H

※実施延べ時間は、謝礼を支払った額で計上。

2 平均値と経年比較

		R4	R3	R2	R1	H30	
学習	チューター一人あたりの活動日数	3.9	2.8	4.8	3.9	4.1	B-1/D
チューター	一日(回)あたりのチューター数	4.3	4.1	4.4	3.0	3.8	B-1/A
	チューター一人あたりの担当生徒数	13.0	16.5	11.7	18.5	20.4	C/B-1
生徒	生徒一人あたりの参加回数	1.4	1.2	1.1	2.0	2.3	C/E
	一日(回)あたりの参加生徒数	55.4	67.1	51.8	55.9	77.4	C/A

3 予算執行率(「予算額」は、国・県の交付決定額2,514,000に市の一般財源を足したものとして執行率を算出する)

	決算額	予算執行率(当初予算)	予算執行率(3月補正後)	備考
報償費	¥2,650,000	74.65%	91.38%	チューター謝礼 2632000 (1316×2000)
需用費	¥196,959	30.77%	50.50%	協議会謝礼 9000×2
旅費	¥185,593	52.73%	52.73%	旅費は協議会旅費(148×2)を含む
役務費	¥39,400	49.87%	49.87%	
計	¥3,071,952	66.48%	82.56%	

※報償費には、運営協議会委員への謝礼を含む。

4 平成25年度からの推移(平成27年度までは「放課後学習チューター事業」の実績)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3(当初予算)	R3(3月補正後)	R4(当初予算)	R4(3月補正後)
延べ日数	303	292	292	197	167	194	212	137	123	123	161	161
チューター登録数	172	180	147	148	153	120	163	127	177	177	176	176
協力延べ人数	1,038	912	842	729	634	588	641	605	501	501	685	685
参加生徒人数	19,600	21,867	27,282	18,101	12,932	11,275	11,851	7,099	8,114	8,114	8,926	8,926
予算額	3,129,000	4,084,000	3,777,000	3,964,000	3,974,000	3,448,500	3,335,000	4,279,000	4,621,000	2,910,000	4,621,000	3,721,000
謝礼・交通費	2,853,000	3,804,000	3,499,000	3,364,000	3,330,000	2,808,500	2,651,000	3,552,000	3,902,000	2,230,000	3,902,000	3,252,000
決算額	2,534,200	2,369,800	2,134,500	2,690,000	2,808,000	2,310,000	2,492,000	1,879,830	1,919,823	1,919,823	2,835,593	2,835,593
執行率	89%	62%	61%	80%	84%	82%	94%	53%	49%	86%	73%	87%
需用費	236,000	236,000	234,000	600,000	600,000	640,000	640,000	640,000	640,000	640,000	640,000	390,000
決算額	224,094	143,404	219,962	488,599	534,879	588,572	614,388	363,733	299,469	299,469	196,959	196,959
執行率	95%	61%	94%	81%	89%	92%	96%	57%	47%	47%	31%	51%
役務費	40000	44000	44000	44,000	44,000	44,000	44,000	87,000	79,000	40,000	79,000	79,000
決算額	8200	43050	43050	43,050	43,050	43,050	43,050	39,450	39,450	39,450	39,400	39,400
執行率	20%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	45%	50%	99%	50%	50%
総決算額	2,766,494	2,556,254	2,397,512	3,221,649	3,385,929	2,898,572	3,149,438	2,283,013	2,258,742	2,258,742	3,071,952	3,071,952
総執行率	88%	63%	63%	81%	85%	84%	94%	53%	49%	78%	66%	83%

※令和4年度の「予算額」は、国・県の交付決定額2,514,000に市の一般財源を加えた額とする。(仮申請額2,846,000より11.69%減額)

仮申請額は、補助対象経費(4,269,000)の3分の2。

また、3月の予算補正により報償費が650,000、需用費が250,000の減額を行ったため当初予算と補正後の執行率をそれぞれ記載する。

令和4年度つくば未来塾事業の成果について

1 「生徒の学習上のつまづきの解消」に関して

- ・個のニーズに応じた学習支援を行うことで、生徒一人一人の質問に応じることができ、学習上のつまづきの解消に効果があった。
- ・参加した生徒たちが学習チューターとの関わりから、学習に取り組む意欲の向上につながり、学習習慣の定着を図るための導入の機会となった。

学校名	検証方法	検証結果	課題
桜中学校	・対象：8学年 参加生徒5名 ・検証する教科：数学 ・検証方法：「1学期中間テスト」と「2学期中間テスト」の学年平均点との差を比較し、検証。事後アンケートで生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証。	・数学で成績が向上した生徒が4名、そのうち3名が10点以上向上。このことから、夏季休業中や放課後に設定した学習機会が生徒の学力向上に良い影響を及ぼしたと考える。 ・生徒対象のアンケート項目6では、5人中全員の生徒が肯定的な回答をしていることから、つくば未来塾の実施により学習習慣の定着に効果があったと考える。	・未来塾実施に関して、計画や運営等での検討が必要。 ・チューターだけに活動を任せると騒がしくなってしまう、結局職員が一緒に指導にあたらざるを得ない状況となり、負担が増している状況が。
竹園東中学校	・対象：9学年(15名) ・検証する教科：教科を指定しなかったため、学習習慣の定着のみを検証 ・検証方法：アンケート調査	未来塾終了後のアンケートにて集中して取り組むことができた、朝起きる習慣が付いた。継続的に学習するようになったと記載した生徒が多く見られた。本校の生徒は、ある程度の学力を維持している生徒が多いが、学習習慣が身に付いていない生徒が若干数見られるため、本校における未来塾実施は効果的だと考える。	・今年度同様に、生活習慣の乱れを防止するため、朝の時間帯から連続した日程で実施する。また、面談期間などと抱き合わせて実施する。 ・募集の際に生徒に学習を希望する教科を書かせ、その教科で教室、チューターさんを割り振るとより質問しやすい雰囲気になる。
並木中学校	・対象：7学年 参加生徒数 6名 ・検証する教科：英語、数学 ・検証方法：単元テスト、定期テストにおける基礎基本問題の正答率	・基礎基本定着のため、7年生の学年職員が生徒や保護者に声をかけ、7年生に参加を促した。事後アンケートでは、「分かるまで丁寧に教えてくれた」「困っているとすぐに声をかけてくれた」とあり、普段の授業では質問をすることが苦手な生徒たちであったが、自分から学習チューターに声をかけて学習している姿が見られ、「分かる楽しさ」を体験できたと考え。 ・7年生の参加者は学習習慣の定着が不十分な生徒が参加していた。テストの正答率としては、英語においては+1.7ポイント、数学においては+0.9ポイントと大きな成果は表れていないが、テスト直しを未来塾でフォローしてもらうことで、やりっぱなしではなく、確認がしっかりと出来た上で前に進めたことは、大変大きな成果だったと考える。 ・受験期の9年生の参加が多く見られた。	・本事業への参加のきっかけが「教員に声をかけられて」ではあったが、最後まで参加できたのは、学習チューターの温かい支援により、学習への面白さを感じられたためだと考える。 ・定期的な実施できるよう日程を組んだことで、生徒も職員も継続的に本事業を活用できたことに成果を感じている。次年度も、毎月3～4回定期的に本事業を活用させていただきたい。 ・予算を上手に活用することができなかった。基礎基本の定着のための効果的な教材を購入し、予算を活用したい。 ・コロナ等で実施ができない日があったが、来年度は計画した日程全て実施できるよう、生徒の体調管理への意識も高めていきたい。
谷田部中学校	・対象：9学年 参加生徒のうち10人 ・検証する教科：数学 ・検証方法：校内実力テストにおける平均点と正答率との差を比較し、検証する。事後アンケートから生徒の学習意欲と学習習慣の定着の状況について検証。	・数学において学力が向上した生徒は10人中8人が向上し、うち2%以上向上した生徒が6人いた。 ・アンケート項目3や項目6においてもいずれも10人が肯定的な回答であった。本事業の実施により、生徒の学力向上と学習習慣の定着の一助となっていると考える。	・学力が低い生徒にも声掛けし、学力の2極化解消を図りたい。 ・生徒が課題とする教科を質問しやすく、学習チューターも積極的に生徒と関わるようにするために、得意教科などを示した名札を作成すると効果的であったと考える。
高山中学校	・対象：7学年：54名 ・検証する教科：5科(英国数社理) ・検証方法：未来塾実施前後の定期テストの結果(学年平均点と未来塾参加生徒の平均点との差)から検証。	・未来塾実施前後の定期テストの7学年全生徒の平均点と未来塾参加生徒の平均点の差を計算すると、未来塾実施前より後の期末テストの方が6.5ポイント上昇。生徒アンケートの項目6では「とても思う」「思う」と前向きな回答をした生徒が85%以上いた。	・学習チューターの有効活用の観点から、予め生徒の困り感の確認や学習チューターの役割について、事前の打ち合わせが必要であると感じた
手代木中学校	・対象：7年 183名 ・検証する教科：理科・社会 ・検証方法： ①令和4年度の実力テストの平均点の変容を検証する。 ②事後アンケートに関する学習意欲の項目及び生活の様子から、学習習慣の定着について検証する。	・部活動のない月曜日、定期テスト3日前に実施。 ・5教科の平均点が向上し、中でも理科・社会の得点は10点以上学年の数値が伸びた。授業では分からなかった内容を個別に対応したりすることで、一人一人のつまづきを解消することができたと考え。 また、生徒のアンケート項目も、それぞれ肯定的な意見が多かった。特に「以前よりも学力が身に付いた」と答えた生徒は半分以上も占め、きめ細やかな指導が生徒の学力向上につながったといえる。	・次年度は、学習の初めに学習チューターの自己紹介を行うことで、生徒がより親しみを持ち、学習チューターに質問しやすくなったと感じた。 ・秋ごろから初めて学習チューターを実施する方には、生徒への接し方について、ベテランとペアで取り組むと、生徒への対応が向上したので、次年度は学習チューターの経験を確認しながら実施したい。
豊里中学校	・対象：7年生 参加生徒10人 ・検証する教科：数学 ・検証方法：定期テスト(1学期中間、1学期期末)の結果、事後アンケートにおける生徒の学習意欲に関する項目から、学習意欲の向上及び学習習慣の定着について検証。	・平均点との差は、7人が拡大、2人減少、1人変わらず。期末テスト(中間テストより難易度が上がる)で上記のような結果となったことは、学習に対する意欲が高まり学力向上に一定の効果があったと考えられる。また、学習チューターの人数を十分確保でき、生徒が質問したり、助言を求めやすい状況をつくってくれたことも起因した。	・学習チューターの確保と事前打合せの実施。 ・実施時期の検討。(夏季休業日始まってすぐの5日間では実施。部活動・三者面談との兼ね合いもあり、時間の確保が困難である。) ・生徒と学習チューターとのよりよい関わり方について考えていく。
大穂中学校	・対象：8学年 参加生徒 120人 ・検証する教科：英語・国語・数学 ・検証方法：「学力診断のためのテスト」における県平均との差を比較し検証する。また、事後アンケートで生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証。	・英語マイナス3点、国語マイナス2点、数学マイナス6点と、3教科では県平均を下回る結果だったが、事後アンケートでは、学習への取組について肯定的な回答をする生徒が多かった。また、自作の学習課題を準備して、学習支援を実施した学習チューターがいた。生徒にとっても個に応じた支援ができ効果的であった。	・学習チューターの確保と、学校との綿密な打合せ等の実施。また、チューターの専門教科を活かす活動方法の検討(チューターの授業や講座形式の実施等)。 ・学習チューター専用の教材を準備(生徒・チューターが同じ学習教材を共有することで、支援がさらにしやすくなる。)
谷田部東中学校	・対象：8年生(10名) ・検証する教科：数学 ・検証方法：6月実施の実力テストと11月・1月実施の実力テストの比較と事後アンケートでの生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証。	成績に伸び悩みを感じつつ授業の取り組み姿勢や自宅学習などでの意欲があまり感じられない生徒を対象とした。実力テストの結果比較では、2人が上昇を見せたが大半は同じまたはそれ以下であった。しかし、事後のアンケートの結果や日頃の授業への参加意欲・学習意欲は高くなっている。本校8年生で放課後に行っている「洞峰塾」への参加率も、この10人に関しては上がってきている。目に見えた点数での変容は顕著には見られないが、学習に対する意欲は確実に変容がうかがえる。	・参加人数が多くなっているため、しっかりとチューター数を確保するために実習生・保護者にさらに積極的に声をかけた。 ・チューターと教師の教室間の移動を考えると教科別の会場の設置を考えたい。 ・早めの関係づくりをしていくために、初日に自己紹介・質問タイムを設ける。

吾妻中学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: つくば未来塾参加生徒 7~9年生延べ101名 検証する教科: 数学 検証方法: 観察および事後アンケート <p>今年度は、夏休み中に7~9年生対象に4日間(8時間)、11月の面談期間に9年生対象に5日間(10時間)実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が課題を持参し、質問する形式をとった。チューター1人に対し、2人程度の生徒がサポートを受けられた。 はじめは、お互いに慣れない様子が見られたが、徐々に慣れ、チューターのほうから話しかけて雰囲気づくりをしたり、一緒に解いたりする姿が見られた。特に、数学の課題については、図や公式などをわかりやすく説明するチューターの姿が多く見られた。生徒のアンケート結果からも、チューターに対して好意的な意見が多く、教えてもらえてよかったという意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> チューターの確保については、市で毎回十分に確保してくださっているため、学校独自で集める必要がなく、大変助かっている。 本校では参加希望調査用紙を保護者に配付している。保護者に対して市の事業を周知すると同時に、生徒が責任をもつて参加できるような仕組みを整えている。他校では、年間を通じて行っているという事例もあると聞いた。今後はどのようなやり方が本校に適しているのか、さらに改善を加えながら、実施していく。
釜崎中学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 9年生 全部参加生徒10人 検証する教科: 数学、英語、国語 検証方法: 10月~12月実力テストにおける学校平均点との差の推移を比較。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施している実力テストの学校平均との差を比較したところ、数学で5名、英語で8名、国語で8名の生徒に改善の傾向が見られた。このことから、夏季休業中や放課後に設定した学習機会が生徒の学力向上に良い影響を及ぼしたと考える。生徒から、「学習の仕方が以前よりも分かるようになった。」「テストに向けてのポイントの絞り方が分かった。」「といった声をアンケートの記述があった。未来塾に参加し、個別の悩みの質問⇒それに対する回答⇒実践⇒結果の向上というサイクルが実現、実感できたという声があがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の未来塾では、学習チューター本人の学習教科の希望を事前に調査し、チューターの指導でできる教科とマッチングさせたグループを編成したところ、例年に比べ、集中して学習に向かう時間や態度の向上が見られた。また、チューターの得意分野を生徒たちにも知らせることで、「この教科のことは〇〇先生に」という専門性をもって指導を頂く場面が多くみられた。 生徒の人数に対して、チューターの数が足りなかった。 9年生主体となってしまった。他学年にも参加を希望する生徒が多いが、実施期間、人数の割り振り等を検討する必要がある。
高崎中学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: つくば未来塾参加者 検証する教科: 五教科(自主学習) 検証方法: 参加生徒からのアンケートによる分析と考察。 	<ul style="list-style-type: none"> 回答からは、強制参加ではないので否定的な意見はなく、つくば未来塾の有用性を感じる回答が多い。今年度も各学年で何度もアナウンスし、有効に活用した生徒が多かった。事前に生徒へアンケートを取ったところ、多くの生徒が参加することが分かった。先生方の説明や事前アンケートが保護者や生徒たちに浸透しての実施ができたと思われる。また、生徒数の把握も行ったので、密の心配などは起きなかった。 自主学習を中心に進める学習の場としたことで、生徒個人が自主性を高め、自分のペースで進められることにより、学習に集中して臨むことができたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習チューターも積極的に関わり、丁寧に指導してくださり、生徒がリーダーとなりやすくなる要因になった。しかし、参加する生徒に固定化も見受けられる。 昨年度の課題から、学年ごとに教室を分け、チューターにも、学年ごとに固定し、生徒とコミュニケーションを図りやすくした。 学年主任から、学習してほしい生徒に未来塾の情報が届いているかが課題との話があった。次年度は、参加してよかったというアンケートの回答を来年度の開催前の情報の一つにして、より多くの生徒の効果的な学習の場としたい。
春日学園義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 9年生 夏季休業中と秋のつくば未来塾の2回とも参加した12名の生徒 検証する教科: 国語・数学・英語 検証方法: つくば未来塾参加前の第2回実力テスト(7月4日実施)3教科合計と、つくば未来塾終了後の第4回実力テスト(11月1日実施)3教科合計の点数を比較し検証。 	<ul style="list-style-type: none"> 9年生全体の合計平均点が15点低くなったのに対し、つくば未来塾参加生徒の合計平均点は3点アップした。また、学年内順位で分析すると、12名中7名の順位が上がった。または同順位であった。このことから、つくば未来塾における学習機会が、生徒の学力向上に良い影響を与えられたと考える。参加した生徒は、苦手な問題をチューターに教えてもらい、納得がいくまで質問を繰り返していた。また事前に質問する問題をピックアップしていた生徒もいた。つくば未来塾の参加によって学習習慣の定着に効果があったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度はより多くの生徒が未来塾に参加できるように、日程の調整や積極的な呼びかけを行っていくと考えている。また、参加した生徒が質問しやすい雰囲気になるように、チューターとの打ち合わせの時間を確保し、未来塾の実施方法なども相談したい。 提出物については、学習チューター出席表と旅行命令票兼支出負担行為表はつくば未来塾終了後に記入し、毎回提出してもらうことで、急な欠席で書類提出が滞らないようにしたい。
秀峰筑波義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 第9学年 検証する教科: 数学 検証方法: 令和4年度に実施の定期テストの点数推移、及びアンケート結果から検証。 <p>第9学年の数学の現状(6月定期テストの学年平均54.9点)。得点の分布を見ると、基本学力の定着に二極化が見られる。数学に関して苦手意識をもっている生徒も多数おり、進んで学習へ取り組んでいる様子があまり見られないという課題もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種テストの平均点の推移から分布図で見ると、40点以上70点未満の層が減り70点以上100点以下の層が増えている。40点以上70点未満の中間層の生徒が少しずつ実力を伸ばしたことがうかがえる。 アンケートの肯定的な回答(1及び2)結果から項目1では、71.9%の生徒が「当てはまる」、「どちらかという」と当てはまる」と答えており、肯定的にとらえている生徒が多い。苦手意識があっても高い意欲をもって、前向きな気持ちで未来塾に取り組んだ生徒が多いと言える。また、項目5では、73.5%が肯定的にとらえている。生徒の記述回答でもチューターに丁寧に教えてもらったことで、チューターによる指導に満足感を得られたことがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は生徒の希望制で未来塾を実施した。約8割の生徒が参加し未来塾を実施できたことで、長期休業中の学習の習慣化が図れた。さらに、効果的な学習の仕方や平常時の学習の習慣化に向けた指導も引き続き行っていきたい。 今年度はチューターと生徒とのかわり方を大切にしたいという観点から、チューター担当学年が変わらないように人員配置をした。生徒からチューターに質問に行くという方式だったため、初めは質問をしに行きづらかった生徒も、人間関係ができて積極的に質問をしに行く姿が見受けられた。 チューターも生徒に対し丁寧に学習指導してくれた。活動の内容や本校生徒の傾向、対応を事前に伝えたことで、スムーズに学習支援をすることができていた。
学園の森義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 9年生 検証する教科: 5教科(英語・国語・数学・社会・理科) 検証方法: 事後アンケートの結果(記述)や学習習慣の定着について検証。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果より、集団での学習の場が提供されたことで、家で学習よりも集中して取り組むことができ、充実した時間を過ごすことができた生徒がほとんどであった。 高校入試に向けて、同じ目標に向かって励まし合いながら学習できたことがうかがえ、学習習慣の定着が図られたと思う。 学習チューターに、積極的に生徒に声をかけるよう依頼した。また、ホワイトボードを活用してのアドバイスをしてもらうようにした。そのため、気軽に質問して、難解な問題に対しても挑戦する姿が見受けられた。また、苦手な教科の克服に役立ったという記述があり、学習意欲の高まりも感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 7年生や8年生の参加も呼びかけたい。(コロナの終息が必要である。)そのためにも、チューターの数2人から3人に増やしたい。 「つくば未来塾」実施日には日課を変更し、1回あたり1.5hか2hの時間の確保をしていきたい。
みどりの学園義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 7・8年生 236名 検証する教科: 国語・社会・数学・理科・英語 検証方法: 生徒対象の事後アンケート調査結果、学力診断テスト結果による県平均点との比較して検証。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象のアンケート調査結果から集中して取り組むことができた、チューターさんに教えてもらい、苦手なところもできるようになった等、一人では取り組みにくい勉強にも、集中できる環境や苦手なところをフォローしてもらえ環境が好評だった。 学力診断テストの結果から7・8年生ともに県平均点を超える結果を得た。わからないところをすぐに質問できる環境により、苦手なところを克服できたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、夏休み中の部活動後に実施したため、汗だくになって取り組んだ学園生が多かったことから、実施時間を部活動前に検討したい。 定期テストなどに合わせて実施を検討し、学園生がテスト結果に勉強の効果を実感できるようにしたい。 チューターの得意科目を考慮して、配置できるようにしたい。

(2) アンケート結果から

	質問項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
生徒	今までより学力が身についたと思うか。		79.9%	79.5%	77.6%	82.5%	78.0%	83.2%
教職員	生徒は学力が身についたと思うか。		89.8%	83.3%	82.5%	88.1%	69.0%	81.4%

※数値は、「あてはまる」「どちらかという」とあてはまる」と回答した割合

・昨年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で予定していた日程で開催できていないことが多かったが、本年度はおおむね予定通りに実施できたため、生徒及び教職員の数値が上昇したと考えられる。また、生徒だけでなく保護者にも周知している学校もあった。学校からの声掛けだけでなく、家庭への情報共有や理解を促すための周知をしていくことで、昨年度よりしていただいたことにより、参加延べ生徒数が昨年度より約500名増えた。

2 「学習意欲の向上」に関して

・新型コロナウイルス感染症防止対策が緩和してきたが、コロナ禍以前に比べるとまだ交流する場が減少している。ため、つくば未来塾に参加して、友達、先生、学習チューターや地域の人々との交流から情意面の数値が高いことが考えられる。

・今年度、新型コロナウイルス感染症等の影響で中止になった日程がほとんどなく、予定通りに実施できた学校が増えた。その結果、生徒が自主的に学習を進める機会が増えたことで、今までよりも取り組んだ教科が好きなようになったかというアンケート結果が昨年よりも10%数値が上がった要因だと考えられる。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4
生徒	楽しく学習が進められたか。	87.7%	81.5%	78.3%	90.1%	90.0%	90.8%
	今までより、取り組んだ教科が好きになったか。	71.3%	72.5%	68.5%	70.1%	59.3%	69.9%
	つくば未来塾に参加してよかったか。	83.7%	80.5%	80.5%	87.4%	85.7%	90.2%
	これからも学習に取り組もうという気持ちになったか。	87.0%	80.2%	77.5%	85.8%	84.7%	87.6%
教職員	生徒は楽しく学習に取り組んでいたか。	94.2%	83.7%	85.2%	93.2%	81.8%	94.2%
	生徒は実施前に比べて取り組んだ教科が好きになったと思うか。	78.3%	74.4%	74.2%	75.6%	72.7%	80.1%
	つくば未来塾を実施してよかったか。	92.8%	78.3%	88.2%	90.9%	74.1%	83.3%

3 「学校と地域の協働連携」に関して

・昨年度と同様に筑波大学と連携して実施した。本年度コロナ禍のため、教育実習やインターンシップ授業に加え、本年度は社会教育実習の活動にも本事業を体験していただくよう担当者と連絡を取り、補填授業として学生に未来塾事業を活用していただいた。

・教職員のアンケートでは、新型コロナウイルス感染症等の影響などの状況にもよるが、生徒が学習チューターと関わりながら学習を進めることに関しては昨年度より10%上昇した。現在、つくば市ではコミュニティ・スクール導入に向け順次いっかうを進めている。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域の人的資源の活用に関して意識が高まってきたことが要因だと考える。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4
生徒	先生や学習チューターに教えてもらってよかったか。	81.0%	82.2%	80.9%	90.5%	86.2%	86.0%
教職員	生徒が学習チューターと学習したことはよかったか。	94.2%	89.9%	89.3%	88.6%	75.5%	94.9%
学習 チュー ター	生徒と楽しく学習が進められたか。	98.6%	95.8%	93.9%	94.2%	93.0%	97.7%
	学習チューターとして「つくば未来塾」に参加してよかったか。	98.6%	98.6%	96.1%	91.3%	86.7%	92.1%
	学習チューターとして生徒の喜ぶ姿に出会えたか。	89.5%	93.4%	92.9%	92.8%	89.8%	97.2%
	やりがいを感じたか。	96.8%	94.6%	92.8%	94.9%	90.6%	96.0%
	今後もつくば市の事業において、協力していただけるか。	92.6%	94.0%	93.4%	92.8%	93.8%	95.5%

4 今後の課題

・各校の取組について、学校の担当者が情報交換をする場があるとよい。

(学習チューターの確保の仕方、年間計画、効果的な学習教材など)

・市の広報誌やHPなどを利用し、広く一般に公募した。また、昨年度と同様に筑波大学のサークルTwitterに公募や、教育実習、インターンシップ授業の教職系研究室との連携に加え、本年度より社会教育実習の授業で体験していただくよう連携を図った。その結果、各校必要な学習チューター数を派遣できたり、学校の実情による日程変更等に対しての急な学習チューターの確保が必要な際にも順次対応することができた

・事業の報告物、アンケートをMicrosoftFormsで実施し、負担軽減したと報告があった。しかし、コロナ禍で実施する不安もあるため、今後の実施体制を見直していくことが課題である。

11月	2	4	3											0	0
1月			10											0	0
豊里中学校				0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	1	6
7月		35	2							1	6			1	6
吾妻中学校				5	25	0	0	0	0	1	4	0	0	6	29
7月		15	4							1	4			1	4
11月			4	5	25									5	25
谷田部東中学校				0	0	3	30	0	0	0	0	0	0	3	30
8月			15			3	30							3	30
高山中学校				0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	1	6
7月	2	22	7							1	6			1	6
春日学園義務教育学校				4	30	0	0	0	0	1	9	0	1	5	40
7月		20	4							1	9			1	9
9月			3	3	23								1	3	24
10月		8	1	1	7									1	7
秀峰筑波義務教育学校				0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	1	6
7月	6	21	3							1	6			1	6
学園の森義務教育学校				11	23	0	0	0	0	1	2	0	0	12	25
7月		8								1	2			1	2
9月				8	17									8	17
10月	4	15												0	0
11月	6	7												0	0
1月				3	6									3	6
みどりの学園義務教育学校				0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	1	8
7月	5	28	5							1	8			1	8
10月	3	3												0	0
12月	2	2												0	0
総計	69	501	166	64	234	10	68	4	16	22	128	6	16	50	231

令和5年度つくば未来塾事業運営会議開催要項

(開催)

第1条 教育長は、生徒の学力向上及び学習習慣の定着を目的としたつくば未来塾事業（以下「事業」という。）を円滑に推進するため、つくば未来塾運営会議（以下「運営会議」という。）を開催する。

(構成)

第2条 運営会議は、次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱した10名以内で構成する。

- (1) 学校教育関係の代表者
- (2) 保護者及び地域住民の代表者
- (3) 青少年育成団体等の代表者
- (4) 行政関係者

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱の日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合は補欠者を委嘱し、その任期は前任者の残任期間とする。

(検討事項等)

第4条 運営会議においては、次の事項について検討する。

- (1) 事業の企画・運営に関する諸問題
- (2) 事業全体に関する検証・評価
- (3) 学校と地域の協働連携の在り方及び学校運営協議会議制度の導入

(座長等)

第5条 運営会議に座長1名及び副座長1名を置く。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は運営会議を統括する。座長に事故があるとき、又は欠けたときは副座長がその職務を代理する。

(開催回数)

第6条 運営会議の開催は年2回とする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

2 会議は教育長が招集し、座長が議長となる。

(庶務)

第7条 運営会議に係る庶務は、教育局生涯学習推進課において行う。

(謝礼)

第8条 市は、運営会議の開催に当たり、第2条第2号及び第3号に該当する委員に対し、謝礼金として1回につき3,000円を支払う。

(旅費)

第9条 市は、運営会議を開催する場合、第2条第1号に該当する委員に対し、市の規定に基づき旅費を支払う。

(補則)

第10条 この要項に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は座長が運営会議に諮って定める。

附 則

この要項は、令和5年6月1日から施行する。

つくば市内の中学生の 「学び」を支援しませんか！

申込締切

6月16日
(金)

つくば未来塾

学習チューター募集

「つくば未来塾学習チューター」とは？

5教科（国・社・数・理・英）について、中学1～3年生を対象に、問題の解き方や考え方等についてアドバイスをします。

※具体的な教科や内容については、各学校で決定します。

こんな方を募集しています！

大学生・大学院生の方

一般の方



教職を希望し、
教えることに興味がある
または、学習支援に関心がある。



地域の中学生に熱意を
持って学習支援ができる

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

問合せ
・
送付先

つくば市教育局生涯学習推進課
〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
TEL:029-883-1111(代)内線4523
MAIL:edc077@city.tsukuba.lg.jp



つくば未来塾 学習チューター 申込みの手引

応募資格

- 将来教職を希望しており、教えることに興味がある
また学習支援に興味がある、大学生・大学院生の方
- 地域の中学生に熱意を持って学習支援ができる一般の方
- 中学生を教えるにあたって、服装や言動等がふさわしい方

実施日程

- 夏季休業日 夏季休業開始日～8月31日（木）
1日1～3時間程度
 - 平日の放課後 9月～1月末まで 1日1時間程度
（6～7月に実施する学校がある場合もあります。）
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響により、変更がある場合があります。
 - ・派遣日等については、学習チューターの希望をお聞きしたうえで決定します。
 - ・夏季休業中に活動できない方でも、随時募集しています。

実施内容

- 5教科（国・社・数・理・英）について、中学1～3年生を対象に、
問題の解き方や考え方等についてアドバイスをします。
※具体的な教科や内容については、各学校で決定します。

謝礼

- 1時間の活動につき、1人2,200円の謝礼を市より支払います。
また、謝礼額から3.063%の所得税を差し引き、銀行口座に振込み
ます。（※令和5年度より交通費は支給しません）

その他

- 活動に際してのボランティア保険は、つくば市負担で加入します。
- 事前オリエンテーションを実施する予定です。（7月上旬予定）
※新型コロナウイルスの影響により、変更がある場合があります。
- 締め切り日を過ぎても受け付ける場合があります。また、応募者が
多数の時にはご希望に添えない場合もあります。

申込方法

インターネット申込の場合

- ・市ホームページで「つくば未来塾」を検索し、いばらき電子申請・届出サービスより
お申込みください。

用紙に記入して申込の場合

- ・つくば市ホームページより申込書をダウンロード（詳細は「つくば未来塾」で検索）
- ・生涯学習推進課、各地域交流センター等で申込書を受け取る。
- ・必要事項を記入の上、つくば市教育局生涯学習推進課に郵送または直接提出してください。

つくば未来塾 学習チューター 個人登録票

ふりがな								
氏名								
職種	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 会社役員 <input type="checkbox"/> 研究職、技術職 <input type="checkbox"/> 専業主婦(夫) <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> 無職							
学校名								
(学部・学群・学類・学年・研究科等)								
生年月日(西暦)	年		月		日生			
現住所	〒 —							
通勤の起点となる住所	〒 —							
<small>※学校へ向かう際にスタート地点となる住所(現住所と同じ場合は「同上」と記入)</small>								
E-mail (使用頻度が最も高いアドレスを記入)								
電話番号 (携帯電話番号)	— —							
通勤方法	<input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> つくバス <input type="checkbox"/> バイク <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他 ()							
口座名義(カナ) (御本人のみ)								
銀行名				支店名				
銀行機関コード (数字4桁)				支店コード (数字3桁)				
口座番号 (数字7桁)						種目	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 当座	
※ゆうちょ銀行口座を御利用の方は、銀行等金融機関振込対応の7桁の口座番号を御記入ください。								
備考 (得意科目、配慮事項等)								

※実施希望校に関しては、裏面に記入してください。

※登録した方は、次年度の学習チューター募集の呼びかけ等で使用します。

実施希望校一覧表

- 1 実施予定日・時間帯欄（網掛け欄）には、希望する学校の予定（別紙「各校の実施予定日と時間帯」）を参照し、その中から希望する日と時間帯をすべて記入してください。
- 2 活動が可能な日及び時間帯に○をつけてください。

氏名： _____

第1希望校（つくば市立 _____ 学校）

時 間 帯	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

第2希望校（つくば市立 _____ 学校）

時 間 帯	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

第3希望校（つくば市立 _____ 学校）

時 間 帯	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

【記入例】

第〇希望校（つくば市立〇〇学校）

時 間 帯	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	11/14	11/15	/	/	/
9:00～9:50	○		○	○	○					
10:00～10:50	○	○		○	○					
11:00～11:50	○	○		○						
16:10～17:10						○	○			

2023年度 つくば未来塾事業実施計画一覧 ※新型コロナウイルスの影響により、変更がある場合があります。

大穂中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	13:30 ~ 16:30	5
7月25日	火	13:30 ~ 16:30	5
7月26日	水	13:30 ~ 16:30	5
7月27日	木	13:30 ~ 16:30	5
7月28日	金	13:30 ~ 16:30	4
1月22日	月	13:30 ~ 14:30	2
1月23日	火	13:30 ~ 15:30	2
1月24日	水	13:30 ~ 15:30	2
1月25日	木	13:30 ~ 15:30	2
1月26日	金	13:30 ~ 15:30	2

豊里中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	8:30 ~ 10:30	9
7月25日	火	8:30 ~ 10:30	9
7月26日	水	8:30 ~ 10:30	9
7月27日	木	8:30 ~ 10:30	9
7月28日	金	8:30 ~ 10:30	9

谷田部中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
10月3日	火	15:30 ~ 16:30	2
10月24日	火	15:30 ~ 16:30	2
10月25日	水	15:30 ~ 16:30	2
10月26日	木	15:20 ~ 16:20	2
11月14日	火	14:30 ~ 16:30	4
11月15日	水	14:30 ~ 16:30	4
11月17日	金	14:30 ~ 16:30	4
11月20日	月	14:30 ~ 16:30	4
11月21日	火	14:30 ~ 16:30	3
11月22日	水	14:30 ~ 16:30	3
12月5日	火	15:30 ~ 16:30	2
12月6日	水	15:30 ~ 16:30	2
1月10日	水	15:30 ~ 16:30	2
1月11日	木	15:20 ~ 16:20	2
1月23日	火	14:30 ~ 16:30	3
1月24日	水	14:30 ~ 16:30	3
1月25日	木	14:30 ~ 16:30	3
1月26日	金	14:30 ~ 16:30	3
1月29日	月	14:30 ~ 16:30	3

研究学園中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	8:30 ~ 11:30	2
7月25日	火	8:30 ~ 11:30	2
7月26日	水	8:30 ~ 11:30	2
7月27日	木	8:30 ~ 11:30	2
7月28日	金	8:30 ~ 11:30	2
11月6日	月	14:30 ~ 16:30	2
11月7日	火	14:30 ~ 16:30	2
11月8日	水	14:30 ~ 16:30	2
11月9日	木	14:30 ~ 16:30	2
11月10日	金	14:30 ~ 16:30	2
12月11日	月	14:30 ~ 16:30	2
12月12日	火	14:30 ~ 16:30	2
12月13日	水	14:30 ~ 16:30	2
12月14日	木	14:30 ~ 16:30	2
12月15日	金	14:30 ~ 16:30	2
1月22日	月	14:30 ~ 16:30	2
1月23日	火	14:30 ~ 16:30	2
1月24日	水	14:30 ~ 16:30	2
1月25日	木	14:30 ~ 16:30	2
1月26日	金	14:30 ~ 16:30	2

谷田部東中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
8月22日	火	8:30 ~ 11:30	10
8月23日	水	8:30 ~ 11:30	10
8月24日	木	8:30 ~ 11:30	10

手代木中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
6月26日	月	15:10 ~ 16:10	2
7月3日	月	15:10 ~ 16:10	2
7月10日	月	15:10 ~ 16:10	2
7月21日	金	10:00 ~ 12:00	2
7月25日	火	10:00 ~ 12:00	2
7月26日	水	10:00 ~ 12:00	2
7月27日	木	10:00 ~ 12:00	2
8月28日	月	10:00 ~ 12:00	3
8月29日	火	10:00 ~ 12:00	3
8月30日	水	10:00 ~ 12:00	3
8月31日	木	10:00 ~ 12:00	3
11月6日	月	15:10 ~ 16:10	2
11月20日	月	15:10 ~ 16:10	2
11月27日	月	15:10 ~ 16:10	6
11月28日	火	16:00 ~ 17:00	6
11月29日	水	16:00 ~ 17:00	6
12月4日	月	15:10 ~ 16:10	2
12月11日	月	15:10 ~ 16:10	2
12月18日	月	15:10 ~ 16:10	2
1月15日	月	15:10 ~ 16:10	2
1月22日	月	15:10 ~ 16:10	2
1月23日	火	14:30 ~ 15:30	2
1月24日	水	14:30 ~ 15:30	2
1月25日	木	14:30 ~ 15:30	2
1月26日	金	14:30 ~ 15:30	2
1月29日	月	14:30 ~ 15:30	2
1月30日	火	14:30 ~ 15:30	2

桜中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	8:30 ~ 11:30	12
7月25日	火	8:30 ~ 11:30	12
11月29日	水	15:30 ~ 16:30	6
1月10日	水	15:30 ~ 16:30	6
1月31日	水	15:30 ~ 16:30	6

竹園東中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	9:00 ~ 12:00	6
7月25日	火	9:00 ~ 12:00	6
7月26日	水	9:00 ~ 12:00	6
7月27日	木	9:00 ~ 12:00	6
7月28日	金	9:00 ~ 12:00	6

高山中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
8月21日	月	9:00 ~ 12:00	10
8月22日	火	9:00 ~ 12:00	10
8月23日	水	9:00 ~ 12:00	10

並木中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月26日	水	9:00 ~ 11:00	6
7月27日	木	9:00 ~ 11:00	6
7月28日	金	9:00 ~ 11:00	7
9月14日	木	16:00 ~ 17:00	4
9月27日	水	16:00 ~ 17:00	4
10月4日	水	16:00 ~ 17:00	4
10月19日	木	16:00 ~ 17:00	4
11月8日	水	16:00 ~ 17:00	4
11月9日	木	16:00 ~ 17:00	4
11月16日	木	16:00 ~ 17:00	4
11月30日	木	16:00 ~ 17:00	4
12月7日	木	16:00 ~ 17:00	4
12月14日	木	16:00 ~ 17:00	4
12月21日	木	16:00 ~ 17:00	4
1月11日	木	16:00 ~ 17:00	4
1月18日	木	16:00 ~ 17:00	4

吾妻中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	8:30 ~ 10:30	5
7月25日	火	8:30 ~ 10:30	5
7月26日	水	8:30 ~ 10:30	5
7月27日	木	8:30 ~ 10:30	5
7月28日	金	8:30 ~ 10:30	5
11月14日	火	14:30 ~ 16:30	5
11月15日	水	14:30 ~ 16:30	5
11月16日	木	14:30 ~ 16:30	5
11月17日	金	14:30 ~ 16:30	5

荃崎中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月21日	金	9:00 ~ 11:00	6
7月24日	月	9:00 ~ 11:00	6
7月25日	火	9:00 ~ 11:00	6
7月26日	水	9:00 ~ 11:00	6
7月27日	木	9:00 ~ 11:00	6
11月15日	水	14:00 ~ 16:00	5
11月16日	木	14:00 ~ 16:00	5
11月17日	金	14:00 ~ 16:00	5

高崎中学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月25日	火	9:30 ~ 11:00	6
7月25日	火	13:30 ~ 15:00	6
7月26日	水	9:30 ~ 11:00	6
7月26日	水	13:30 ~ 15:00	6
7月27日	木	9:30 ~ 11:00	6
7月27日	木	13:30 ~ 15:00	6
7月28日	金	9:30 ~ 11:00	6
7月28日	金	13:30 ~ 15:00	6
7月31日	月	9:30 ~ 11:00	6
7月31日	月	13:30 ~ 15:00	6

春日学園義務教育学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	9:00 ~ 10:00	10
7月24日	月	10:10 ~ 11:10	10
7月25日	火	9:00 ~ 10:00	10
7月25日	火	10:10 ~ 11:10	10
7月26日	水	9:00 ~ 10:00	10
7月26日	水	10:10 ~ 11:10	10
7月27日	木	9:00 ~ 10:00	9
7月27日	木	10:10 ~ 11:10	9
10月3日	火	15:30 ~ 16:30	4
10月4日	水	15:55 ~ 16:55	4
10月5日	木	15:30 ~ 16:30	4

秀峰筑波義務教育学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	9:00 ~ 12:00	6
7月25日	火	9:00 ~ 12:00	6
7月26日	水	9:00 ~ 12:00	6
7月27日	木	9:00 ~ 12:00	6
7月28日	金	9:00 ~ 12:00	6

学園の森義務教育学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月24日	月	8:30 ~ 11:30	2
7月25日	火	8:30 ~ 11:30	2
7月26日	水	8:30 ~ 11:30	2
7月27日	木	8:30 ~ 11:30	2
7月28日	金	8:30 ~ 11:30	2
11月6日	月	13:30 ~ 16:30	2
11月7日	火	13:30 ~ 16:30	2
11月8日	水	13:30 ~ 16:30	2
11月9日	木	13:30 ~ 16:30	2
11月10日	金	13:30 ~ 16:30	2
1月22日	月	13:30 ~ 16:30	2
1月23日	火	13:30 ~ 16:30	2
1月24日	水	13:30 ~ 16:30	2
1月25日	木	13:30 ~ 16:30	2
1月26日	金	13:30 ~ 16:30	2

みどりの学園義務教育学校			
月日	曜日	時間帯	募集人数
7月21日	金	10:00 ~ 12:00	8
7月24日	月	10:00 ~ 12:00	8
7月25日	火	10:00 ~ 12:00	8
7月26日	水	10:00 ~ 12:00	7
7月27日	木	10:00 ~ 12:00	7
12月7日	木	15:15 ~ 16:15	7
12月8日	金	15:15 ~ 16:15	7

会 議 録

会議の名称		令和5年度 第2回つくば未来塾運営会議	
開催日時		令和6年(2024年)3月13日(水) 開会10時30分 閉会11時45分	
開催場所		つくば市役所4階 401会議室	
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課	
出席者	委員	中山正巳(座長)、永田孝男(副座長) 中嶋 修、岡野知樹	
	その他	なし	
	事務局	課長 澤頭 由紀子、課長補佐 色川 純子 係長 飯島 遊、社会教育主事 村上 和宏 地域連携教育指導員 酒井 和宏	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 0名
非公開の場合はその理由			
議題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度事業実績報告 ・ 令和5年度つくば未来塾事業の成果と課題について ・ 課題を踏まえた令和6年度の取組について 	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 主 催 者 挨 拶 3 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度事業実績報告 (2) 令和5年度つくば未来塾事業の成果と課題について (3) 課題を踏まえた令和6年度の取組について 4 その他 		

5 閉 会

<審議内容>

事務局（色川課長補佐）：皆様お忙しい中、本運営会議に御参加いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより、令和5年度第2回つくば未来塾運営会議を開催いたします。なお、この会議に関しましては、つくば市附属機関懇談会議及び懇談会等の公開に関する条例第3条に基づき、公開の会議とさせていただきます。会議録につきましては、後日、つくば市ホームページに掲載いたします。皆様、どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、つくば市教育生涯学習推進課課長の澤頭から御挨拶申し上げます。

事務局（澤頭課長）：皆様、おはようございます。御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございます。最近、コミュニティ・スクールという言葉を目にする機会が多くあるかと思えます。つくば市におきましては、令和7年度末までに、全学園にコミュニティ・スクールを導入する計画を進めているところでございます。背景としましては、子どもたちを取り巻く環境が様々変化してきている。そして、学校の方でも抱える問題が多くなってきて、多様化している。こういった背景の元、地域と学校との連携・協働という観点からコミュニティ・スクールを進めているところでございます。

未来塾事業につきましても同じ観点から、改めて重要な事業であると認識しております。今後もさらに地域と学校との連携を深めまして、事業の内容を充実させていきたいなというふうに考えております。

今年度の未来塾の開催の状況ですけれども、昨年5月に、コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴いまして、実施率が98.8%ということで、ほぼ計画通りに実施することができております。筑波大学をはじめとした大学生ですとか、応募してくださったボランティアの方、関係機関の方々の御協力をいただいて事業を進めることができております。

この未来塾事業など目的が、基礎学力の向上と学習習慣の定着なのですけれども、これ

らに関しまして、実施時間が増えているということもありますので、確かな成果が得られているのではないかとこのように分析しております。

本日は、本年度の事業実績から見える課題ですとか、それを踏まえての次年度の運営のあり方につきまして、お示しさせていただきたいと思っております。皆様からの御意見や御感想、御助言をいただけますと、ありがたいというふうに思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（色川課長補佐）：それでは、これからの議事進行につきましては、中山座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

中山座長：ただいま、座長として御紹介いただきました、中山でございます。

それでは、本日の議事の方をまず確認させていただきますが、第1番目としまして、「令和5年度事業実績報告」について事務局の方でお願いいたします。

事務局（飯島係長）：生涯学習推進課の飯島です。ただいま、御説明ありがとうございましたとおり、「令和5年度事業実績報告」について御説明させていただきます。資料につきましては、「つくば未来塾事業実績報告書」に基づいて御説明させていただきたいと思っております。

まず一番上でございます、実数と経年比較のところから、御説明させていただきたいと思っております。冒頭、挨拶でもありましたように、昨年度までは、新型コロナウイルス感染症等の影響によりまして、日程自体が中止となる場合もございましたので、実施延べ時間、実施延べ日数、いずれも、令和4年度1,380時間の161日と今年度より低い数値となっておりますが、今年度は日程の中止ということがございませんでしたので、延べ時間1,497.5時間、延べ日数実質194日間と、昨年度よりも高い数値となっております。

その結果、例年と比べてより多くの生徒さんに学習の機会を提供することができたのではないかと分析しております。

また、続きまして全チューター協力延べ人数、学生協力延べ人数、筑波大生、筑波大学院生延べ人数、それから他大学生延べ人数、一般の協力の方延べ人数も同様の理由により、昨年度より、すべて高い数値となっております。

学生チューターの内訳を見ますと筑波大生、大学院生の比率が多いことがわかります。

また、一般の地域住民の方、現役を引退された方等、比較的時間に余裕のある方にも多くの時間、また、様々な学校で御協力いただき、こうした学生及び地域住民の協力により成り立っている事業であるという風に考えております。

また続きまして、下から3番目、Cの参加生徒延べ人数に関しましても、やはり昨年度より数値が増加しております。また、Dの今年度の学習チューター登録数ですが、こちら171名と、ほぼ昨年一昨年と同様の数値となっております。

その内訳に関しまして、枠外に示しておりますが、171名のうち筑波大生63人、筑波大学院生16人、他大学生16人、一般人が76人となっております。

続きまして、2番の平均値と経年比較についてご説明させていただきます。この表では、チューター1人当たりの活動日数、1日当たりのチューター数、チューター1人当たりの担当生徒数、それから生徒1人当たりの参加回数、1日当たりの参加生徒数の推移がわかります。この推移に関しましては、概ね例年と同様の水準で推移しているということが言えます。

続きまして3の予算執行率であります。予算編成の仕組みとして、市の予算の場合、予算の執行率が当初の予定を下回ったにした部分につきましては、3月議会において予算の減額補正を行っております。そのため、補正前と補正後の執行率の歳出の表にそれぞれ記載しております。

まず、歳出の大部分を占めます報償費ですが、こちらは学習チューターに対する謝礼が主なものとなっております。

こちらに関しましては、学習チューター実施延べ時間1,497.5時間に対して、1時間当たりの謝礼単価2,200円、こちらを掛けたものが329万4,500円となっております。また、第1回目の運営会議、委員の方々に支払った謝礼が、9,000円となっております。こちらを合計して、330万3,500円の執行となっております。

また、2番目の需用費につきましては、未来塾を実施していただいている各学校に対し、事務用消耗品、及びテキスト代といった消耗品の予算を各学校に4万円を計上しております。そちらの執行状況となっております。

また、旅費に関しましては、未来塾運営会議委員の方にお支払いする費用弁償となっております。

また、最後4番目の役務費に関しましては、学習チューターの方が活動中に、事故に遭われた場合などを想定しての損害保険料の加入料金となっております。なお、この表中の旅費についてですが、昨年度、第2回目の未来塾運営会議で、ご報告した件になりますが、令和4年度までは、学習チューターの方に、謝礼に加えて旅費と、両方、二重で支払っていたということがございましたが、令和5年度からは、謝礼の額を、2,000円から2,200円に引き上げて、謝礼に一本化したという経緯がございます。

そのため、一番下の※印に、令和5年3月の予算補正により、旅費30万円の減額を行った為、当初予算と補正後の執行率をそれぞれ記載するとございますが、旅費に関しては、当初より30万円の減額を行っております。それから、この右側にある歳入の部分についてご説明したいと思います。

本未来塾事業は、この※印にありますように、地域の教育支援体制構築事業費補助金というものを活用しております。補助率は、補助対象経費の3分の2を、国と県が半分ずつ折半して、市の方に支払うという形になっております。

今年度に関しましては、市の交付申請に対して、県から決定が来ているのが298万3,000円となっております。この後、3月中に再度、市の方から実績報告というものを行いまして、それに対して交付額が確定いたしますので、確定額としては、現在は未定となっております。

続きまして4番、平成27年度からの推移についてご説明させていただきます。

こちらは予算執行等に関する平成27年度からの、経年変化をまとめた表となっております。表の一番右側の黄色い部分が、令和5年度に関する、予算執行の結果となっております。一番右側3月補正後の全体の執行率は82%で、昨年度の執行率は83%とほぼ同様の水準となっております。概ね適正な予算執行であるとは考えておるのですが、この中で、若干執行率が低かった部分。執行率54%となっているところで、需要費につきましてですが、この需要費の内訳が、先ほど申し上げました事務用消耗品とか、テキスト代の予算

となっております。こちらは各学校で未来塾のために購入していただいた消耗品ですとか、テキスト代の請求書を市の方に送っていただいて、生涯学習推進課で支払いを行っております。

ただ、学校の状況によっては、まだ購入いただいてないというところもございましたので、来年度に関しましては、こちらから積極的な働きかけを行うなどして、執行率を上げられるように考えております。

「令和5年度つくば未来塾事業実績」についてのご説明については以上となります。

中山座長：ありがとうございました。

ただ今、御説明がありましたけれど、「令和5年度つくば未来塾事業実績」について委員の方から御質問はありますでしょうか。

中山座長：岡野委員、御質問はありますでしょうか。

岡野委員：特段、今、御説明いただいたところではないのですが、1点ですね、学習チューターさんの登録171名という、一般の方の参加者が一番多いのだなと改めて感じたところです。私のイメージで、大学生の方が参加される人数が多いと感じていたわけなのですが。一般の方というのは、大体で結構なのですが、どのような方が参加されている傾向にございますか。

事務局（飯島係長）概ねの傾向なのですが、やはり現役を引退されて時間がある方、それからやはり元教員をやっていた方等が、教える意欲があって、参加していただいています。

また、例えば主婦の方で、余裕のある時間でやりたい方等、多岐に渡っているのですが、今まで見た中ではやはり現役を引退された方が多いかなという印象があります。

岡野委員：地域の教育支援体制の事業補助を活用した取組ということも踏まえて、先ほど澤頭課長の方からも御説明があったコミュニティ・スクール等も踏まえて、まさにこの未来塾事業は、地域の方々のお力がある支えていただいているということも改めて感じたところです。

今後、コミュニティ・スクールの基盤の1つとしても、こういった事業をいかにそうい

うマッチングさせていけるかとか一つの手立てとしましては良い方向に向かっていただければ、さらに充実できるのかなという感想を持ちました。

中山座長：それでは、教育の立場から、永田委員お願いいたします。

永田委員：この実績については特にはないですけども、今、話題になったコミュニティ・スクールに向けてですね、本校の方も元教員の方や地元の方がやはり多いので、実際に足を学校に運んでくれる貴重な機会にまずなるということ。それから、子どもたちの様子を9年生ですけれども、様子を直接見ていただいて、助言とかをいただける良い機会になっているなという風に思っています。以上です。

中山座長：ありがとうございます。中嶋委員お願いいたします。

中嶋委員：今、教育局の方からデータの資料をお示しいただいたので、数値的なことは、なるほどという風に感じました。この趣旨というか、この「つくば未来塾」とは、何であるか。自分の理解になるのですが、私も学校にいた人間ですので、「放課後学習チューター事業」と言われるとびんと来ますが、その発展系だというのが今わかるので、要するに、言葉的には「放課後学習チューター」だとか、何かこの方が行っている事業の内容は明確にわかりますよね。つくば未来塾と言われてたら一体どこで何をやっているのが勉強のことなのか、未来塾と言われてたら、勉強だけでもなさそうだし内容だけちょっとイメージするとですね。どこで、誰が、どのように名前つけたか私は分かりませんが、要するに夏休みとかですね。放課後という言葉がついていますけれども、先生以外、学校の先生以外の人間が生徒たちの学力向上のために教えるという制度ですよ。

そのために教える側が、大学生とか一般の人とかに時間給を払ってきてもらって、子どもに勉強を教えるということですよ。

それは今まで本来は学校の先生が、仕事をしていたものです。我々が現場にいる頃は、補習とか昔で言えばね、他も補習したり、夏休み集めて個別指導したりというのが、我々がやってきた教育なのですけれども、それがだんだん先生方の負担をきつとを減らすっていうかな、そういうことなのだろうと思いますけれども、学校以外の人たちに使ってというかな、予算が国や県からも出ている事業であるということはわかりました。

中山座長：ありがとうございます。

それでは、私の方から質問なのですが、予算執行率の歳入額 298 万 3,000 円で、決算見込み額が 375 万という 3分の2以上を受けているのですが、これは何かあるのでしょうか。

事務局（飯島係長）これに関しましてですが、まず、この交付決定の 298 万 3,000 円なのですが、これは年度当初、こちらから見込みで申請をしたものに対する決定額となっております。実際には、この後市の方で、この決算見込み額、375 万 653 円による実績報告というものを行いますので、実際にはこの 375 万 653 円のうちの 3分の2が今後、補助金として、入ってくるであろうということになります。

中山座長：375 万 653 円のうち今後、交付決定がなされて、3分の2程度の補助金が入ってくるということですね。

事務局（飯島係長）はい。そうです。

中山座長：その他、何かございますでしょうか。ないようでしたら、続きまして、2番目の「令和5年度つくば未来塾事業の成果と課題」について、事務局からお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：私から成果についてお話をさせていただきたいと思えます。資料についてですが、赤は「学力向上、つまずき解消」について、紫は「学習意欲の向上、学習習慣の定着」について、緑は「つくば未来塾の実施方法の工夫」について、水色は「課題」というように、項目ごと色別にお示しさせていただいております。

まず、学力向上、つまずき解消についての成果ですが、アンケートの調査項目について、高い数値を示しております。学習チューターの方々が、生徒一人一人の学習課題に寄り添ってくれていたことが成果として、現れているかなというふうに思います。

それから未来塾に参加した後の子どもたちの前向き感がアンケート結果にも反映されていて、学力が前よりも伸びたとそういった、感想を持っている生徒がたくさんいます。

それから、紫の学習意欲の向上の成果についてですが、こちら「これからの学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか」の質問において、非常に肯定的な意見を生

徒たちは返してくれています。

また、こちらにも重複しますが、「つくば未来塾参加後の事業への意欲が増した」とこれは教員の感覚の部分になりますけれども、そういった意欲が見られたというような前向きな印象を抱いてもらっています。数値的なところでも生徒のところ、特に数値的に高い数値を示しております。

それから、こちらの緑の実施方法の工夫についてですね。こちらの方も、各学校、それぞれ工夫して取り組みの方をしていただきまして、例えば、県立の入試問題の数学大問1、2の正答率を上げられるよう、基礎的な問題を提示し、別れまで寄り添うサポートを行ったということで、こちらは並木中の取組ですが、該当する生徒の学習の成果についても回答していただいております。

それから、面談期間につくば未来塾を実施することで、進路を考える目標が具体化する中での取組となり、生徒が意欲を持って参加することができた。特に11月の私立の面談の裏側で未来塾を行っていたと聞いていますが、そういった意欲が高まる時期に、未来塾を抱き合わせて実施することによって、意欲を高めるような工夫をしてくださいました。

それから、谷田部中の取組になりますが、つくば未来塾の学習環境を「仲間と学び合う教室」「1人で集中して取り組む教室」との2つに分けて実施した。また、学習チューターの得意教科などを示した名札を作成掲示したりして、自己紹介の時間を取り入れたりして、学習環境を整えた。という実施方法も聞いています。

谷田部中には私もお伺いさせていただいたのですが、「1人で集中して取り組む教室」は非常に集中して、わからないところだけ、チューターの方に聞くというような取組をしていました。また、「仲間と学び合う教室」では、わからないところが多かったり課題を持ってきたりしている生徒もたくさんいましたので、共に学び合いをしている場面にチューターの方も入っていきながら前向きに取り組むしておられました。

それから、手代木中の取組ですが、部活動のない月曜日やテスト3日前の放課後の学習の場として、未来塾を設定した。何曜日は未来塾というような形で、子どもたちも未来塾がいつ実施されるかが、認識できるような形で取り組んでいただきました。

それから、思考を働かせて解いていく問題を中心に学習していくよう、あらかじめ生徒に連絡していく必要がある。こちらは課題になってしまいますが。

つまり、1人で黙々と自習をしているというような生徒もいたのですけれども、そのような取組になってしまうと、学習チューターの方がせっかく来ているのに、学習支援がうまく活用できないという状況になってしまいます。ですから、わからない問題や考えを深めていくような問題を未来塾の時間に解決する場として学習チューターの方々に学習支援を依頼できるようになると良いと思っています。

それから、これは先ほどの事例と逆のことなのですが、意欲的な生徒は未来塾に参加する前に、自分のわからない問題を整理して、未来塾が始まると同時に学習チューターの方に聞きに行くような生徒さんもいたと聞いていますので、これは素晴らしい活用だなと感じています。

学校と地域の協働連携に関してのところの御説明をさせていただきます。やはり筑波大学関係の方に多く登録していただいております。学習チューター171名登録中79名が筑波大学関係ということで、本事業において、大きな支えとなっていると感じております。

また、オリエンテーションで未来塾の説明をさせていただいたときにも感じたのですが、本事業に対して前向きな形で、チューターの方々が参加をいただいております。それはアンケート結果にも反映されていまして、非常に前向きな回答をいただいております。

それから、先ほど岡野委員からもありましたけれども、未来塾の事業としては、地域の人的資源を積極的な活用するということも、国の方針から降りてきておりますので、そういった視点で、地域に住んでいるチューターの方を配置したりだとか、当該校にゆかりのある地域の方々をできる限りなのですが、配置をさせたりしていただいております。それとともに、慣れているチューターの方が参加していただけることで、子どもたちとの信頼関係もできて、より効果的な事業になるのかなと感じております。

成果のことは以上になります。よろしく申し上げます。

中山座長：村上社会教育主事の方から説明がございました。

成果の報告を受けまして、永田委員、いかがでしょうか。

永田委員：今、説明を聞いていて感じたのは、実施方法の工夫ということで、本校（秀峰筑波）の場合は、どうしてもバスでの通学、下校になってしまうので、夏休み等、まとまって実施するという方法しかとれないのですが、説明を聞いていると、やはり必要感があるタイミングで学習チューターが確保できれば、より効果的な指導につながるのかなと感じました。例えばテスト何日前とか、子どもたちが一生懸命やろうとしているタイミングで、必要な支援があると良いのかなと感じました。

やはり、自分から主体的に学習できる子、それから、経済的に恵まれていれば、環境的に塾に行っている生徒もいると思いますけども、就学援助の生徒たちも多いので、そういう生徒たちにとっては、このような機会っていうのは大切なのかなと思いました。

中山座長：秀峰筑波はバスでの通学なので、例えば北条地区だけとか一部の地区だけ集中して未来塾に参加するという事は難しいですね。

それでは、中嶋委員、いかがですか。

中嶋委員：説明を村上社会教育主事からいただいた内容の中で、実施方法の工夫について、いくつかの学校から、アンケート結果に基づいて説明をしていただきましたが、好事例がいくつか出されたので、各学校でのやり方の工夫で効果が上がるっていうふうに思うのですよね。ですから、まず、説明を聞いていて思うことは、各学校の校長に、こちらの担当課の方からこういう事業がある説明とかでするのでしょうかけれども、その際に学校長がこの目的がわかって、どのように活用するかというところを年度始めに、学校長に説明をしっかりとすべきだと感じます。

それから、学校は例えば、定期テストの3日前とか、月曜日は部活がない日だからそこにチューターの方に来てもらって生徒に教えてもらえたいとか、夏休み集中的に、学習させたいとか、学校の考えが様々あると思うので、学校長の考えとチューターの配置のマッチングをしっかりとやらせると効果的なのかなと感じます。

それと併せて、学校の先生がいるわけなので、学習チューターと学校の先生で連携して、生徒の学力向上に向けた手立てを講じてもらえると良いかなと思います。

また、つくば未来塾とは、別問題になるかもしれないのですが、今、学校は先生が足りないという状況が続いていますので、学習チューターに参加するような人材に先生をやってもらえないかというようなことも考えるような危機的な状況になっているのではないかと感じます。本来の趣旨とは違うのですが、意見として思うところです。

中山座長：ありがとうございます。岡野課長いかがでしょうか。

岡野委員：今、2人の委員さんからお話をいただきまして、お話が重なるところもあるのですが、やはり、学校の先生方の考え方として、未来塾事業をどのようにとらえるかが大事なのだろうなど、この課題も踏まえて、読ませていただくと感じました。

やはり、多岐に渡って先生方だけでは、支援がしきれない実情も多く、様々なニーズの多様性に富んだお子さんたちが、たくさんいらっしゃる中で、やはり教員以外のこういった人たちをいかに活用するかっていう視点を各学校でお持ちいただくのがやっぱり大事なと思います。

校内フリースクールも学び推進課で担当しているところですが、そういった外部の支援やお子さんのニーズに合わせて関わらせていただいています。

そうすると、先に課題の方にお話を進めてしまい、申し訳ないのですが、学習チューターの方だけに学習支援をお任せすると騒がしくなってしまうたり、学習が成り立たなかったりといったコメントもあったかと思うのですが、そういったところの学校も未来塾事業をどのように捉えるかということを変えていくことで、そういった現実もう少し軽減されるのかなという感じがします。

この事業を有効に使うという意味では、実施方法を含めて考えていきますと、「仲間と学び合う教室」「1人で集中し合う教室」という取組は、「なるほど」というところも感じたところです。学力の高いお子さんからですね、苦手なお子さんもいらっしゃいますので、それぞれに学習支援の方法を併せていくというのは大変なことだと思うのですが、こういった教室の分け方をしたり、工夫されたりしている学校の好事例を積極的に発信していただいて、有効に使っていただけるとありがたいなと改めて感じたところです。

先ほど、中嶋委員さんの方から、教員が少し足りないということは、おっしゃる通りで

す。本当に今、苦勞して配置をしているところです。やはり、厳しいところもあってですね。学習チューターとして、御協力いただいている筑波大生の中で、特に大学院生には非常勤講師として、御協力をいただいています。また、放課後の部活動についても、こちらに前手代木中の酒井先生もいらしていますが、積極的に大学と連携を図っていただいて、御協力をいただいたりしています。様々な方法で、先生方の負担感を少しでも少なくできるようにと考えているところです。以上となります。

中山座長：ありがとうございます。

それでは私の方から、様々御意見がありましたけれども、教職員のアンケート結果を見ると少し、後ろ向きな結果も見られるのかなと思います。最後の「つくば未来塾を実施してよかったか」というところで、74.7%なので、4分の1はつくば未来塾の実施について「よくない」というふうにおもっているのかなと感じました。経年変化を見てみると、令和2年度は90.9%だったのが、74.7%というのは、少し気になりました。

追加で何かありますでしょうか。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：私の方から、先ほど中嶋先生の御質問に対して、お答えになるかどうかわかりませんが、1つマッチングの問題で、最初に学校側からこの日に実施したいという希望を出してもらっています。それを受けて、事務局から学習チューターの方に学校の希望をお伝えしています。その後、学習チューターの方から、希望を出してもらって、そこで日程の調整をしています。我々の事務局の仕事の半分ぐらいのエネルギーがそこに、かかっています。後は、事務的な謝礼の支払いやキャンセルが出たときの対応及び調整がありますが、学校の希望日と、学習チューターの方々の希望日を合わせるというところは結構、力を入れて行っているところです。

あと、教員不足の件はおっしゃる通りで、校長先生によっては、学習チューターの方に声かけて、教員免許を持っているかどうかの確認をしてらっしゃる校長先生もいらっしゃいました。いろいろ学校も手を変え品を変え、様々なところにアンテナ張って、教職員の確保をしているのだと思います。様々な御質問ありがとうございました。

中山座長：事務局の方からは特に補足とかございますか。

事務局（飯島係長）：それでは、今の回答も含めてなのですが、続けて「課題を踏まえた令和6年度の取組について」ということで御説明させていただければと思います。

中山座長：それでは、よろしくお願いします。

事務局（村上 社会教育主事）「課題及び令和6年の取組について」ということで、御説明をさせていただきます。

課題の中に、「学習チューターの急なキャンセルがあった」ということがありました。学習チューターのキャンセルなのですが、今年度一年間を通してみていくと、大きく2つのパターンが見られました。1つ目は、学習チューターの方の体調が急に悪くなってしまったということ。2つ目は、つくば未来塾の申し込みの構成ですが、最初に学校の日程を御登録いただいている学習チューターの方にお示しして、それに対して参加できるかどうかを学習チューターの方々に申し込みをしていただいているような段取りになっているのですが、特に筑波大生の後期の授業日程がまだ、わからない状態で登録をしていますので、未来塾の後半の日程になったところで、「実は授業が入っていて行けなくなりました。」というようなキャンセルが多く見られました。

ただ、授業に関しては、前もってわかっていることだとは思いますが、来年度は事前にキャンセルは避けるようにということで、オリエンテーション等を通してお伝えしていきたいなというふうに思っています。

それから、先ほど岡野委員からもありましたが、学習チューターだけに活動を任せると騒がしくなってしまう学習にふさわしい環境がつかれないことや教員の負担が増しているというような御意見もいただきました。

こちらの課題に関しては、各学校の方にお伺いさせていただいたのですが、やはりこの未来塾の運営に関しても、学校の意図もありまして、例えば夏休み前半に、既習事項の復習とかそういったことを前半にやらせたいということで、学年単位で多くの人数を集めて実施している学校もありました。

ただ、それはこちらのアナウンスが足りなかったところもあると思うのですが、つくば未来塾の目的としては、「つまずきの解消」それから「学力向上、学習習慣の定

着」ということになりますので、基本的には少人数の実施がよろしいのかなというふうに思います。ですから、学校の方には、好事例等も踏まえてお伝えしながら、その辺も改善できればなというふうに思っております。

それから、生徒が黙々と自習をしていて、学習チューターの方が声をかけづらいということもありました。先ほども御説明の中にも入れさせていただいたのですが、未来塾の間には、「わからない問題や疑問に思っていることを解決する場」として、事前に学校から生徒に周知していただけるような取組をしていただけると、こういった課題も解決していくのかなという風に思っています。

それから、「成果の検証方法が不明確なので具体的な視点を示して欲しい」ということで、アンケートの質問項目を検討し、検証方法を明確にしたいというふうに思っています。

そのアンケートの検討に関する説明は、後でさせていただくのですが、それ以外の課題として、令和6年度取組についてということですが、今年度は、好事例に関しては、最初のつくば未来塾事業の要項に載せてお示しをしたということ、それから各学校に訪問でお伺いしたときに、他の学校では、この様な取組をされていますよということで、担当の方と直接やりとりをして、そういった情報を共有させていただいたのですが、来年度は教務主任会等にお伺いをさせていただきまして、好事例の紹介ですとか、あるいは先生方から御質問をお受けしたり、御説明をさせていただいたり、そういった時間を取りたいなというふうに思っています。

それから、もう1つ大きな課題としましては、大学生など、特に筑波大生だと思うのですが、交通手段の関係で参加できる学校がどうしても限られている学習チューターの方が多いです。特に筑波地区、谷田部地区、豊里地区、みどりの地区には車などで活動できる学習チューターの人材確保の問題がありますので、最後のその他のところで御説明したいと思うのですが、アナウンスの方法を工夫して、人材確保の課題について対応していきたいと考えております。

続いて、先ほど御説明の途中になっていました、アンケート項目の検討というところな

のですが、資料の中に、つくば未来塾の実施アンケートの新しいものと古いものがございますので資料を御用意いただければと思います。

生徒用アンケートの1枚目のところからなのですが、アンケートが古い方では「つくば未来塾に参加するより、参加する前よりも、学力が身についたと思いますか」というようなアンケートの質問項目になっております。前向きな回答を子どもたちからいただいているのですけれども、この質問内容ですと、つくば未来塾で果たして学力が身に付いたかどうかというのは、そういう場合もあると思うのですが、日々の授業だったり、家庭学習だったり、そういったところで身に付いている部分も多くあると思いますので、検討した結果、新しいアンケート項目のところなのですけれども、「つくば未来塾に参加することで、これまでわからない問題がわかるようになりましたか」というようなアンケート項目に変えました。こちらも、子どもたちの主観にはなってしまうのですが、最低でも未来塾に参加することによって、「自分のわからないところがわかるようになったよ。」というデータが、集約することができれば、子どもたちにとって有意義なものになったかどうかというのを把握するには有効なデータになるのではないかと考えております。

それから古いアンケート項目の「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか」の項目に対して、「つくば未来塾に参加したことで、学習習慣が身に付くきっかけになりましたか」という文言に変えました。

今年度も学習チューターのオリエンテーションで御説明をさせていただく際に、具体的にその時間にどのようなことをお願いすれば良いのかなというのが、自分の中でもわからないところがあったのですが、「学力向上、つまずきの解消」、「学習習慣の定着に向けてのきっかけづくり」というこの2つをお示しすることで、学習チューターの方にも、より頑張ってもらえるのではないかなという風に思います。

わからない問題を持ってきている生徒に対して、わかるようにサポートして欲しいということと、学習習慣が身につくきっかけというのは、その学習チューターの方々の様々な御経験とか、そういった関わりの中で、何かきっかけとなることがあるかもしれませんので、そういったことを、子どもたちにお示しいただけるようお願いいたしますということ

で、こちらの方からも、御依頼をさせていただきたいというふうに思っています。

同じように、学習チューターのアンケート、それから、学校用のアンケートということで、今の質問に対応してある形でアンケートを作成いたしました。

例えば、学習チューターのアンケートでしたら、「学習支援を通じて、生徒たちの学習のつまずきを解消できたと思いますか」や「学習支援を通じて、生徒の学習習慣が身に付くきっかけを与えることができたと思いますか」などです。後は、意欲的なものを調査するような内容で作成いたしました。

「課題を踏まえた令和6年度の取組について」の説明について以上になります。

中山座長：ありがとうございました。

学習チューター用のアンケートなのですが、事前に配布してあげると、頑張ってもらいたい内容が伝わり、良い結果につながるのではないのかなと感じます。

事務局（村上 社会教育主事）：ありがとうございます。

中山座長：アンケートの質問項目がありますよということが事前にわかっていると、心がけてくれるのかなという風には思いますよね。どのように教えたら効果的かということを考えて、指導できるのかなという風に思いました。

その他、何かありますでしょうか。

中嶋委員：今のアンケートのところで、かなり改善をしていて、苦勞されている様子が見られます。このアンケートは、学習チューターの方から教えてもらった生徒にアンケートをとる必要性はあるし、生徒は肯定的な良い結果を出している。生徒と教える側の学習チューターの方にアンケートを取る必要性はあると感じます。ただ、学校には必要性がないと感じます。先生方は学習チューターの方に生徒たちを預けて、そこにはできるだけを出さないで、教員はその時間に別の仕事ができるという活用の在り方もあるでしょうから、できれば学校用のアンケート項目は「学習のつまずきが解消できたか」とか、「学習習慣が身に付いたか」ということではなくて、学校長のねらい通りにこの事業ができたかとか、効果があったかとか、学校の先生以外の人に教えてもらうことで何か生徒も変化することがあるわけだよね。担任の先生とだけ相性が良いというはでないの、普段関わるこ

とのない人に教わるということが、学習意欲が高まるきっかけになることもあるし、また大学生など生徒の年齢に近い関りや様々な観点から言葉掛けがあったことが効果的であったとか。学校として、この未来塾の運営計画通りにできたとか、学校長等の経営者側に問うというアンケートが良いのではないかと思うのですよね。

学校の教職員の意欲が低いというデータについてですが、中山座長もおっしゃっていましたが、ある意味先生たちが未来塾の時間は席を外して、学習チューターの方にお任せして、個別の時間に学習チューターの方に教えてもらって、子どもの学力を上げるという事業の側面があると思うので、そういった方向に進めていくのが良いのではないかと思います。

中山座長：ありがとうございました。

それでは、永田委員いかがでしょうか。

永田委員：アンケートについては、もう一度、特に学校のアンケート項目については、再考していただければありがたいと思います。

また、令和6年度の取り組みについてというところで、先ほど村上社会教育主事からもありましたように、教務主任会とかで、やっぱり全体でやっていただけると、良い刺激にもなるでしょうし、「もっとこんな風にやってみよう」というような意欲が湧くと思います。ピンポイントで学校に来て説明というよりも、きっかけになるのかなっていう風に思いました。是非、今後全体の説明を設けるなどしていただくとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

中山座長：ありがとうございました。

(事務局) 澤頭課長：はい。

中山座長：澤頭課長どうぞ。

(事務局) 澤頭課長：永田委員、ありがとうございました。

教務主任会で説明させていただこうかと、我々も思っているところだったのですが、中嶋委員の方から先ほど校長の経営スタイルも大切だよって話もありましたので、校長会か教務主任会かどちらに説明するのがより良いのかなと考えているところがあります。我々

としては、未来塾を実際に主導してくださっているのは教務主任の先生方だという認識を持っているのですけれども、どちらの方がより効果的かというところがあるのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

中山座長：現場の校長先生からお願いします。

永田委員：具体的にはやはり、実際取り組んでいるのは教務主任なので、教務主任から計画を出されたときに、校長から助言することができると思いますので、教務主任会で説明をしていただいた方が実効性はあるのではないかなというふうに思います。

事務局（澤頭課長）：校長先生方にもお知らせしたいなどは、思っているのですけれども、学校としては、教務主任、校長先生にもお伝えするとなると、伝達する回数が多いですよね。

中嶋委員：現場の校長先生が言うとおりで、それで良いと思います。だから校長先生方には、岡野委員もいらしているけれども、校長会等で様々な内容の説明があると思いますので、その中の1つとして生涯学習課長さんが説明するという場があっても良いのかなとは思いますがね。

澤頭課長：まずは、教務主任会で良いですかね。

中嶋委員：そうですね。校長会は何度も行うでしょうからね。

私の考えになりますが、どのような事業も効果を上げるためには、いろんなことが外部からも入ってくるし、全て私は校長の経営だと思っているのですよね。自分の経営もそうなのだけれども、校長が本気にならなかつたら、効果は上がりませんよね。

だから、校長がこのつくば未来塾事業をどのように生かして、我が校の子どもの学習意欲を高め、つまづきを解消しようとして実践するかっていう校長が考えていないと効果は上がりませんと思います。教務主任は、学校長の考えがあって、その後、運営する役割を担っているということなので、私は常に校長としてそのような考えを持っておりました。

ですから、常に私は校長を鍛えなければ学校は良くならないと思っています。

中山座長：それでは、岡野委員お願いします。

岡野課長：今のお話をお伺いしていて、やはり校長先生方と教務主任の先生方にはお伝え

する内容は、全く異なってくるかなと思います。

現実的な具体的なところは、教務主任の先生方が担っていくことになりますので、その部分は、生涯学習推進課の方でお話いただくのが良いかなというふうに思います。

ただ、校長先生方にはこの事業の趣旨とか取り組み方については、学び推進課の方も含めて、お話をさせていただくことも可能です。この事業の大切さとかですよ。

そういうきっかけの中で、具体的には教務主任会で担当課より御説明させていただきま

す。

校長会等で何か御協力ができるかなと、お話を聞いていて思っていたところです。ありがとうございます。

中山座長：ありがとうございます。

その他、御意見がないようでしたら、議事の方は終了させていただいて、事務局の方に戻させていただきたいと思います。

中嶋委員：その他で、学校のことで聞いてもよろしいですか。

今 度、来年新しい学校ができるっていう、このリーフレットにコミュニティ・スクールのつくば市の全部の学校が載っているの、令和6年度みどりの学園が分離してできる学校というのは、この翠輝（すいき）学園ということよろしいですか。教えて欲しいのですけれども、来年度開校の新設校はどれにあたるのですか。

事務局（飯島係長）：来年度、みどりの南小、みどりの南中、谷田部南小が翠輝（すいき）学園として動き出します。令和6年度から開校いたします。

コミュニティ・スクールの導入に関しましては、実際、推進会議始まるのは令和7年度、ですので令和6年度については、翠輝（すいき）学園はコミュニティ・スクールの準備段階として生涯学習推進課ともやりとりをしながら、令和7年度の推進会議開催に向けて、準備を進めていくという形になります。

中嶋委員：ここの翠輝（すいき）学園は、みどりの南中という中学校に、みどりの南小と谷田部南小の子どもたちが入って、令和6年度から入って行って、新しい学園の翠輝（すいき）学園になるということですよ。

あと学校数は、令和6年度はつくば市で小学校、中学校、義務教育学校で計何校になるのですか。

(事務局) 飯島係長：みどりの南中も含めて、中学校は18校になります。

岡野委員：小学校、中学校、義務教育学校全て併せて、50校となります。

中嶋委員：わかりました。ありがとうございます。

(事務局) 飯島係長：事務局からお知らせといたしまして、先ほど村上の方から説明がございましたが、学習チューターの募集をするにあたって、特に筑波大生の方々は、交通手段の関係で、どうしても中心部に希望が偏りがちという現状がございます。

学習チューターの方々に対する募集の仕方も工夫しようということで、来年度のチラシのデザインをリニューアルさせていただきまして、より多くの方にお申し込みいただけるように工夫をいたしました。

チラシに従いまして、令和6年5月9日から6月14日の期間で募集を開始して、例年通り事業を進めていきたいと考えております。

それから2番目といたしまして、先ほど中嶋委員からございました、コミュニティ・スクールにつきまして、簡単に進捗状況の方、御説明させていただきたいと思います。すでに委員として入られている方も、いらっしゃると思いますので、繰り返しになってしまいましたが、コミュニティ・スクールとは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する学校運営協議会制度を導入している学校のことをいいます。

冒頭、澤頭課長の方からも説明がございましたように、子どもたち、それから学校が抱える課題が複雑化、多様化してきておりまして、学校と地域の連携協働の重要性が指摘されていることから、つくば市では、令和4年度から順次コミュニティ・スクールを導入していき、平成7年度末までに市内全学園に導入する計画を立てております。

導入のスケジュールですが、令和5年度に関しましては、まず、令和4年度から、推進会議という形で協議会の準備をしていた吾妻学園が年3回の協議会を開催することができました。

その中で、地域学校協働活動推進員、いわゆる地域コーディネーターを通じまして、地

域住民の方に、ゲストティーチャーとして授業を行っていただくというような事業も実施し、地域と学校の連携というものが進んでいる状況でございます。

また、今年度、推進会議、協議会の準備段階として推進会議を実施しまして、8学園、「竹園学園」「荃崎学園」「桜学園」「豊里学園」「洞峰学園」「大穂学園」「春日学園」「秀峰筑波」ですね、こちらは全3回から4回の推進会議を開催していただきまして、今後、あるべき学校の姿ですとか、子どもたちのために何ができるかといったことをお話し合いいただきました。

そして、この8学園に関しましては、令和6年度、法に基づく協議会として正式に、立ち上がることとなります。また6年度に関しましては、新たに6学園の「高崎学園」「虹色学園」「桜並木学園」「高山学園」「光輝学園」「学園の森義務教育学校」の6学園が、協議会の準備段階として、推進会議を立ち上げることになっております。

令和6年度に関しましては、合わせて15学園でコミュニティ・スクールが導入されるという形になっております。

コミュニティ・スクールの目的といたしましては、法に基づくところでは、「学校運営の基本方針の承認」ですとか、「学校運営に対する意見」、「教職員の任用に関する意見」それから「学校関係者評価」といったところになっておりますが、やはり学校と児童・生徒の保護者、地域の方、行政が協力して、子どもたちのためにどういった教育がしていけるかというところを話し合うというところが、一番重要な目的だと考えております。

今後、さらに、未来塾含めまして、地域と学校の協力体制が進めるよう課としても支援して参りたいと思いますので、引き続きこのコミュニティ・スクール事業に御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に来年度の運営会議について、簡単にご説明させていただきます。

今年度はお忙しい中、本運営会議に御出席いただきまして、ありがとうございました。委員の方の任期が年度末までとなっております。役職によりましては来年度交代という方もいらっしゃると思いますが、重ねて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

来年度に関しましては、6月の中旬に第1回、それからまた、3月の中旬に第2回とい

うことで予定しております。正式な日程や会場等が決まりましたら、また改めて御連絡をさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

その他、全体で何か御質問等がございましたら、この場でお受けしたいとおもいます。

事務局（色川課長補佐）：それでは御質問がないようですので、以上をもちまして、令和5年度第2回つくば未来塾運営会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

令和5年度第2回つくば未来塾運営会議 次第

日時：令和6年(2024年)3月13日(水)

午前10時30分～11時45分

場所：つくば市役所4階 401会議室

1 開会

2 主催者挨拶

3 議事

- (1) 令和5年度事業実績報告
- (2) 令和5年度つくば未来塾事業の成果と課題について
- (3) 課題を踏まえた令和6年度の取組について

4 その他

5 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 令和5年度 つくば未来塾事業実績報告書
- ・ 令和5年度 つくば未来塾事業における主な成果と課題
- ・ 「つくば未来塾」実施アンケート（新・旧）
- ・ 令和6年度 つくば未来塾学習チューター募集チラシ
- ・ つくば市コミュニティ・スクール リーフレット

令和5年度 第2回つくば未来塾運営会議 委員名簿

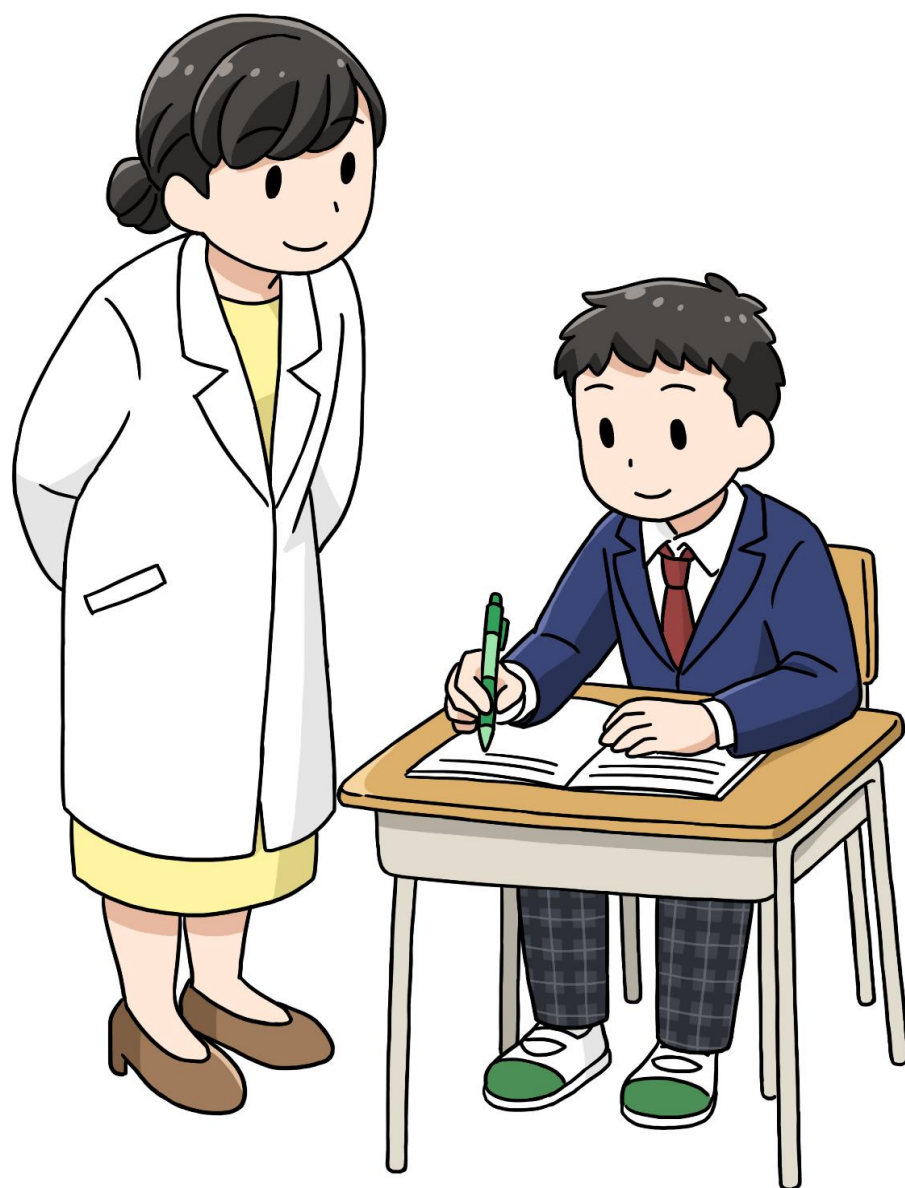
1 委員

	所属・役職等	氏 名
1	つくば市PTA連絡協議会会長	内野 隆之
2	つくば市青少年相談員連絡協議会会長	中山 正巳
3	青少年を育てるつくば市民の会会長	中嶋 修
4	つくば市学校長会 副会長 秀峰筑波義務教育学校 校長	永田 孝男
5	教育局学び推進課 課長	岡野 知樹

2 事務局職員

	所属・役職等	氏 名
1	教育局 生涯学習推進課 課長	澤頭 由紀子
2	教育局 生涯学習推進課 課長補佐	色川 純子
3	教育局 生涯学習推進課 係長	飯島 遊
4	教育局 生涯学習推進課 社会教育主事	村上 和宏
5	教育局 生涯学習推進課 地域連携教育指導員	酒井 和宏

令和5年度
つくば未来塾事業実績報告書



令和6年(2024年)3月13日(水)
つくば市教育局 生涯学習推進課

令和5年度つくば未来塾事業実績

1 実数と経年比較

		R5	R4	R3	R2	R1
0	実施延べ時間 (時間)	1497.5	1380	906.5	885	1243
A	実施延べ日数 (日)	194	161	123	137	212
B-1	全チューター協力延べ人数 (人)	781	685	501	605	641
B-2	学生協力延べ人数 (人)	344	295	272	348	-
B-3	筑波大生 (筑波大学院生) 延べ人数 (人)	287	232	224	247	-
B-4	他大学生延べ人数 (人)	57	63	48	101	-
B-5	一般協力延べ人数 (人)	437	390	229	257	
C	参加生徒延べ人数 (人)	9558	8926	8248	7099	11851
D	学習チューター登録数 (人)	171	176	177	127	163
E	中学校・義務教育学校 在籍数 (人)	6584	6608	6694	6398	5931

※チューター登録者 (D) の内訳は、筑波大生63人、筑波大学院生16人、他大学生16人、一般76人

2 平均値と経年比較

		R5	R4	R3	R2	R1	
学習	チューター一人あたりの活動日数	4.6	3.9	4.8	3.9	4.1	B-1/D
	チューター一日 (回) あたりのチューター数	4.0	4.3	4.4	3.0	3.8	B-1/A
	チューター一人あたりの担当生徒数	12.2	13.0	11.7	18.5	20.4	C/B-1
生徒	生徒一人あたりの参加回数	1.5	1.4	1.1	2.0	2.3	C/E
	一日 (回) あたりの参加生徒数	49.3	55.4	51.8	55.9	77.4	C/A

3 予算執行率

歳出

	決算見込額	予算執行率 (当初予算)	予算執行率 (3月補正後)
報償費	3,303,500	87.63%	87.63%
需用費	367,465	54.04%	54.04%
旅費	888	0.25%	1.71%
役務費	78,800	99.75%	99.75%
計	3,750,653	76.84%	81.87%

歳入

	交付決定額	交付確定額
国・県補助金	2,983,000	- (※)

※本事業は、地域の教育支援体制等構築事業費補助金を活用して事業を実施している。補助率は、補助対象経費の3分の2 (国、県1/3ずつ)。市の交付申請に対して、県からの交付決定額は2,983,000円だが、3月中に行う実績報告に基づき、最終的に交付額が確定する。

※報償費 (学習チューター謝礼3,294,500 + 運営会議員謝礼9,000)

4 平成27年度からの推移 (平成27年度までは「放課後学習チューター事業」の実績)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4(当初予算)	R4(3月補正後)	R5(当初予算)	R5(3月補正後)
延べ日数	292	197	167	194	212	137	123	161	161	194	194
チューター登録数	147	148	153	120	163	127	177	176	176	171	171
協力延べ人数	842	729	634	588	641	605	501	685	685	781	781
参加生徒人数	27,282	18,101	12,932	11,275	11,851	7,099	8,114	8,926	8,926	8,463	8,463
予算額	3,777,000	3,964,000	3,974,000	3,448,500	3,335,000	4,279,000	2,910,000	4,621,000	3,721,000	4,881,000	4,581,000
謝礼・旅費	3,499,000	3,364,000	3,330,000	2,808,500	2,651,000	3,552,000	2,230,000	3,902,000	3,252,000	4,122,000	3,822,000
決算額	2,134,500	2,690,000	2,808,000	2,310,000	2,492,000	1,879,830	1,919,823	2,835,593	2,835,593	3,304,388	3,304,388
執行率	61%	80%	84%	82%	94%	53%	86%	73%	87%	80%	86%
需用費	234,000	600,000	600,000	640,000	640,000	640,000	640,000	640,000	390,000	680,000	680,000
決算額	219,962	488,599	534,879	588,572	614,388	363,733	299,469	196,959	196,959	367,465	367,465
執行率	94%	81%	89%	92%	96%	57%	47%	31%	51%	54%	54%
役務費	44000	44000	44,000	44,000	44,000	87,000	40,000	79,000	79,000	79,000	79,000
決算額	43050	43050	43,050	43,050	43,050	39,450	39,450	39,400	39,400	78,800	78,800
執行率	98%	98%	98%	98%	98%	45%	99%	50%	50%	100%	100%
総決算額	2,397,512	3,221,649	3,385,929	2,898,572	3,149,438	2,283,013	2,258,742	3,071,952	3,071,952	3,750,653	3,750,653
総執行率	63%	81%	85%	84%	94%	53%	78%	66%	83%	77%	82%

※令和5年度は、3月の予算補正により旅費300,000円の減額を行ったため、当初予算と補正後の執行率をそれぞれ記載する。

令和5年度つくば未来塾事業の成果と課題について **赤(学力向上、つまづき解消)** **紫(学習意欲の向上)** **緑(実施方法の工夫)** **水色(課題)**

学校名	検証方法	検証結果	課題
桜中学校	(1)対象:7学年 参加生徒5名 (2)検証する教科:数学 (3)検証方法:「1学期中間テスト」と「2学期中間テスト」の学年平均点との差を比較し、検証する。 事後アンケートで生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証する。	・1学期中間テストと2学期中間テストにおける学年平均点との差を比較したところ、 数学で成績が向上した生徒が4名おり、そのうち3名が10点以上向上した。 ・アンケート項目「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか」では、5人中全員の生徒が肯定的な回答をしていた。	・チューターの急なキャンセルが3件あった。 ・積極的に継続するメリットが感じられない。無くしてほしいという意見があった。 ・チューターだけに活動を任せると騒がしくなってしまう、学習にふさわしい環境がつかれない。結局職員と一緒に指導にあたざるを得ない状況となり、負担が増している。
竹園東中学校	(1)対象:7年生 27名 8年生 19名 9年生 21名 (2)検証する教科: (3)検証方法:アンケート	未来塾実施後のアンケートにて (1)「つくば未来塾」に参加する前よりも学力が身に付いたと思いますか。」の設問では、肯定的回答100%であった (2)「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか。」の設問では、87%の生徒が肯定的回答、13%の生徒は否定的回答、学習習慣の定着には結び付いていない生徒もいることが分かる。 (3)「つくば未来塾」に参加してよかったですか。」の設問では、85%の生徒が肯定的回答、15%の生徒は否定的回答。学習チューターのアンケートには、「おしゃべりで時間を過ごしてしまう生徒がいた。」との回答があり、未来塾での時間を有効活用することができなかった生徒もいると考える。	本校は夏季休業中の面談期間と合わせて未来塾の取り組みを実施している。生徒は未来塾を、面談の待ち時間に利用したり、課題について相談したりすることができたので、今後も継続したい。一方で、教員の目が届かないことで、生徒がおしゃべりをして終わってしまうこともあった。学習チューターと丁寧な打ち合わせをし、内容や方法についての共通理解を図る必要があると感じた。
並木中学校	(1)対象:8年 (2)検証する教科:数学 (3)検証方法:本校8学年においては、学力の二極化が他学年に比べて大きい。そのため、学力に不安のある生徒に教員が声をかけ、本事業に参加するよう促した。本事業において、数学の基礎問題を提示してできるだけサポートし、10月の第3回実力テストと1月の学力診断テストにおける点数分布において効果を検証した。	・本校では年間18回のつくば未来塾を行った。 ・10月の実力テストまでは、自分で好きな教科を選び、チューターに質問しながら学習を進めるスタイルをとっていた。 ・10月の実力テストの結果で、第8学年の数学において20点を下回った生徒が20名いた。 当該20名には7回分の未来塾において、 県立入試問題の数学大問①②の正答率を上げられるよう、基礎的な問題を提示し、分かるまで寄り添うサポートを行った。結果、1月の学力診断テストでは、11名の生徒が20点を上回り、成果を出すことができた。	・今年度の事後アンケートで、生徒も職員も継続的に本事業を活用できたことに成果を感じている。次年度も今年度同様に、毎月3~4回 constants に本事業を計画的に活用していきたい。 ・今年度は本事業での予算を活用し、9年生対象に高校入試の過去問を購入した。多くの生徒が活用することができた。 ・学習チューターには、「手が止まったら声をかけてほしい」と打合せをして臨んだため、積極的に生徒に声をかけてくれるチューターが多く、助かった。
谷田部中学校	(1)対象:9学年 参加生徒4名 (2)検証する教科:数学 (3)検証方法:校内実力テストにおける校内平均点と正答率との差を比較し、検証する。事後アンケートから生徒の学習意欲と学習習慣の定着の状況について検証する。	・9学年においては、テスト前は1時間、11月と1月の面談期間は2時間、未来塾を実施した。 ・面談期間の2時間実施では進路を考え目標が具体化する中での実施のため、課題意識をもって参加する生徒が多く見られた。 ・9学年4人を抽出して校内実力テスト(4月実施)と(1月実施)における校内平均点・正答率との差を比較した。 数学において学力が向上した生徒は4人中3人。	・9学年では、未来塾の場を二つに分け、仲間と学び合う場として設定した教室と一人集中して取り組む場を設定した。これにより、個に応じた学習の場を提供することができた。(他学年では、一つの教室、またはクラスごとの教室設定のためテスト前のワーク課題に取り組む自習的な学習を進める生徒にはチューターへの質問が出にくい状況があった。) ・学力下位層の生徒にも積極的な利用を促し、学力の2極化解消を図りたい。 ・学習チューターの得意教科などを示した名札を作成・掲示し、自己紹介の時間を取り入れた。
高山中学校	(1)対象:7学年:56名 (2)検証する教科:5科(英国数社理) (3)検証方法:当日の様子や未来塾実施前後の定期テストの結果(学年平均点と未来塾参加生徒の平均点との差)から検証する。	・未来塾実施前後の定期テストの 第7学年全生徒の平均点と未来塾参加生徒の平均点の差を計算すると、未来塾実施前より後の期末テストの方が9.6ポイント上昇した。 3日間のチューターの実施後、点数に伸びが見られた。 【考察】 ・テスト実施前のチューターの活用に伴い、テスト結果が上昇する結果となったと考えられる。 ・チューターのサポートのおかげで生徒の学習意欲が高まり、成果にも表れたことで、自己肯定感の向上や学習習慣の定着につながった。	学習チューターから、「各自の自習だと教えられる教科と教えられない教科があった。」というお話を伺った。学習チューターを十分に活用できるように、未来塾の実施方法を見直していく必要があると実感した。また、実施期間については、夏季休業中の実施だけでなく、放課後等にも設定し、自分の力で学習を進めていくことが難しい生徒に対して、支援していくことも考えていきたい。
手代木中学校	(1)対象:9年 191名 (2)検証する教科:数学・社会 (3)検証方法: ①令和5年度の実力テストの平均点の変容を検証する。 ②事後アンケートに関する学習意欲の項目及び生活の様子から、学習習慣の定着について検証する。	本校では部活動のない月曜日を中心に放課後の学習の場として、未来塾の他に未来塾+を実施している。未来塾+は、ボランティアで大学生や地域の方がチューターとなり学習支援を行っている。 本年度の取り組みとして、未来塾・未来塾+は毎週月曜日や定期テスト3日前、特別講座として未来塾・未来塾+を実施した。 9年生では5教科の平均点が向上した。中でも数学・社会の得点は学年の数値が伸びている。このことから、未来塾で繰り返し練習問題に取り組んだり、授業では分からなかった内容を個別に対応したりすることで、一人一人のつまづきを解消することができ、学年全体で学力が向上したと考える。	・次年度は、学習の初めに学習チューターの自己紹介を行うことで、生徒がより親しみをもち、学習チューターに質問しやすくなると感じた。 ・課題ではないが、秋以降の実施の際に、体調不良等で欠席をするチューターがいたが、生涯学習課のサポートを受け、予定通り実施できありがたかった。 ・本校の場合、未来塾の時間に職員会議等を入れていることが多いので、初めて本校に来る方よりも、本校の未来塾に慣れている方の方がありがたい。
豊里中学校	(1)対象:8年生 参加生徒10人 (2)検証する教科:教科ではなく、事後アンケートを用いる。 (3)検証方法:期末テストを夏休み前に実施したことにより、7月の未来塾後に検証できる材料がないため、事後アンケートにおける学力向上・学習意欲に関する項目から、学習意欲の向上及び学習習慣の定着について検証する。	・「つくば未来塾に参加する前よりも学力が身についたと思いますか。」という質問の結果、当てはまるが5人(50%)、どちらかという当てはまるが4人(40%)と、抽出した生徒10人のうち、肯定的な意見を述べた生徒が9割に上った。 ・「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか。」という質問の結果、当てはまるが3人(30%)、どちらかという当てはまるが4人(40%)と、肯定的な意見が7割に上った。	・豊里中における「つくば未来塾」の持ち方は、例年夏休み中の5日間に集中的に開催し、7・8年生は原則参加、9年生は希望者のみ参加であったが、7・8年生はモチベーションが上がらないまま参加している生徒も多くいた。そこで、夏休み中にこだわらず、年間を通じて放課後等に希望者のみで行うことで、教えたチューターと、教えてほしい生徒という関係で行うことも考えたい。 ・実施にあたっていつも気を使うのがチューターの方と生徒の相性であり、担当を変えるか、固定するかはどちらもメリットがあるため悩むところである。
大穂中学校	(1)対象:7学年 参加生徒150人 (2)検証する教科:英語・国語・数学 (3)検証方法:「学力診断のためのテスト」における本校目標平均点(各教科60点)との差を比較し検証する。また、事後アンケートで生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証する。	本校では、年間10回のつくば未来塾を実施した。特に、7月に実施した5回の未来塾に参加した 7年生の150人の生徒について、学力診断のためのテストの本校目標平均点(各教科60点以上)との差を3教科に絞って比較した。 英語+4.8点、国語+5.6点、数学-5点という結果であった。 数学科において目標平均点を下回る結果ではあったが、事後アンケートでは、 学習に取り組むことについて肯定的な回答をする生徒が多かった。 学校全体として、基礎学力の定着や根拠に基づいて思考することから、中長期的なスパンで学習の成果を検証していく必要があると考えている。	・学校の実態に応じた学習チューター専用の学習教材を準備しての支援することで学力の向上につなげていきたい。 ・学習チューターの人数を確保するため、本校の卒業生(大学生)や保護者、地域の方の協力を呼びかけ、学習支援の体制づくりを図っていききたい。 ・自作の学習課題を準備したりこれまでの経験に基づいた学習方法を生徒たちにアドバイスしたりしながら、学習支援を実施したチューターがいた。生徒にとっても個に応じた支援ができ効果的であった。また、学校と事前の打合せ等を綿密にすることで柔軟な支援ができると感じた。
谷田部東中学校	(1)対象:8年生(10名) (2)検証する教科:数学 (3)検証方法:6月実施の実力テストと11月実施の実力テストの比較と事後アンケートで生徒の学習意欲に関する項目から学習習慣の定着について検証する。	対象の10人は、成績に伸び悩みを感じつつ授業の取り組み姿勢や自宅学習などでの意欲があまり感じられない生徒を対象者とした。 実力テストの結果比較では、2人の向上が見られたが、その他は同じまたはそれ以下であった。しかし、 事後のアンケートの結果や日頃の授業への参加意欲・学習意欲は高くなっている。 本校8年生で放課後に行っている。「洞峰塾」への参加率も、この10人に関しては向上が見られる。目に見えた点数での変容は顕著には見られないが、学習に対する意欲は確実に変容がうかがえる。	・参加人数が多くなっているため、しっかりとチューター数を確保するために実習生・保護者にさらに積極的に声をかけた。 ・チューターや教師の教室間の移動を考えると教科別の会場の設置を考えたい。 ・早めの関係づくりをしていくために、初日に自己紹介・質問タイムを設ける。

吾妻中学校	(1)対象:夏と秋に実施の未来塾両方に参加した9学年(夏:9名に実施)(秋:8名に実施) (2) 検証する教科:教科を指定しなかったため、学習習慣の定着のみを検証 (3) 検証方法:アンケート調査	学力向上については確認できないが、アンケート結果から学習習慣の定着は図れたのではないかと考える。本校の生徒は、高い学力を維持している生徒が多いが、学習習慣が身につけていない生徒が若干数見られるため、それら生徒にとっては未来塾の実施は効果的だと考えられる。	・夏休みは全学年の面談と抱き合わせで朝の時間帯から連続した日程で実施し、多くの生徒が参加した。 ・秋は9学年の三者面談と抱き合わせで実施したため、希望者が少なかった。過去問を予め取り揃えるなど、希望者が増えるような工夫が必要だと思われる。 ・募集の際に生徒に学習を希望する教科を書かせ、その教科で教室、チューターさんを割り振るとより質問しやすい雰囲気になるかもしれない。但し、チューターさんが毎回変わったり、急な欠勤などがあつたりするので、生徒の要望通りになる可能性が低くなる。
荃崎中学校	(1)対象:7年生 (2)検証する教科:英語 (3)検証方法:英検IBAのスコアによる経年比較	・選択問題である英検IBAの結果で経年のデータを比較すると、リスニング、リーディングそして総合スコアを大きく伸ばすことに成功した。 ・地域の学習チューターさんが熱心に指導をしてくださる姿が見られ、子どもたちとも大変良い関係を築きながら行うことができた。 ・学習チューターさんを手配していただいて、大変ありがたかったです。当日のキャンセルなどもなく、スムーズに進めることができました。	・成果の検証方法は、本当にこれでよいのか分からずに報告書を作成させていただきました。何をもって「成果」とされたのか、その点をしっかりと踏まえた実践でなければ、学校としては非常に表面的な成果報告書しか作成できないと感じました。「生徒の8割の参加を目指す」や「参加した生徒の学習意欲をさらに高める」などの具体的な視点が実践前に必要だと作成をして感じました
高崎中学校	(1)対象:8学年:19名 (2)検証する教科:5科(英国数社理) (3)検証方法:未来塾実施前後の定期テストの結果(学年平均点と未来塾参加生徒の平均点との差)から検証する。	・未来塾実施前後の定期テストの第8学年全生徒の平均点と未来塾参加生徒の平均点の差を計算すると、未来塾実施前より実施後の期末テストの方が7.1ポイント上昇した。5日間の学習チューターによる学習支援によって、点数に伸びが見られたのが分かる。 ・生徒対象アンケート項目6「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか。」という質問では「とても思う」「思う」と前向きな回答をした生徒が90%以上いた。 ・特に中間テストでは5教科合計二桁台だった生徒数名が、期末テストには三桁になった。	・学習チューターから、「黙々と漢字勉強をしていて、声をかけづらい生徒もいた。」というお話を伺った。学習チューターの有効活用の観点から、「思考を働かせて解いていく問題」を中心に学習していくよう、予め生徒に連絡していく必要があると実感した。
研究学園中学校	(1)対象:7~9年生 (2)検証する教科:5教科(英語・国語・数学) (3)検証方法:	・集団での学習の場が提供されたことで、家での学習よりも集中して取り組むことができ、充実した時間を過ごすことができた生徒がほとんどであった。 ・7月の実施で満足した生徒が多く、11月以降の実施の際も、ほとんどの生徒が参加した。自分の課題を設定し、励まし合いながら学習できたことがうかがえ、学習習慣の定着が図られたと思う。 ・学習チューターに、積極的に生徒に声をかけるよう依頼した。気軽に質問して、難解な問題に対しても挑戦する姿が見受けられた。また、苦手な教科の克服に役立ったという記述があり、学習意欲の高まりも感じられた。	・冬季は、下校時間が早く時間の設定が難しい。夏休み期間の計画を工夫していきたい。 ・積極的に学ぶことができるよう、自らの課題を設定し計画を立てて臨ませることが必要かと思う。
春日学園義務教育学校	(1)対象:9年生 夏季休業中と秋のつくば未来塾の2回とも参加した14名の生徒 (2)検証する教科:国語・数学・英語 (3)検証方法:つくば未来塾参加前の第2回実力テスト3教科合計と、つくば未来塾終了後の第3回実力テスト3教科合計の点数を比較し検証する。	本校では、夏季休業中に4日間、10月に3日間、つくば未来塾を実施した。 9年生全体の合計平均点が-30.6点になったことに対して、つくば未来塾に参加した生徒の合計平均点は-11.6点に留まっている。また、学年内順位で分析すると、14名中9名の順位が上がっている、または同順位であった。 このことから、夏季休業中や10月初旬の放課後に設定したつくば未来塾における学習の機会が、生徒の学力向上に良い影響を与えたと考えられる。 参加した生徒は、苦手な問題をチューターに教えてもらい、納得がいくまで質問を繰り返していた。また事前に質問する問題をピックアップし、つくば未来塾が始まるとすぐにチューターに質問していた生徒もいた。つくば未来塾の参加によって学習習慣の定着にも効果があったと考えられる。	来年度もより多くの生徒が未来塾に参加できるように、日程の調整や積極的な呼びかけを行っていく。また、参加した生徒が質問しやすい雰囲気になるように、チューターとの打ち合わせの時間を確保し、未来塾の実施方法なども相談していきたい。
秀峰筑波義務教育学校	(1)対象:9学年 (2)検証する教科:数学 (3)検証方法:令和5年度における定期テストの点数推移、及びアンケート結果から検証する。	(1)第9学年の数学の現状 6月の定期テストの学年平均は59.6点であった。得点分布からは、80点以上の上位層と50点以下の下位層に二極化した傾向が見られる。特に、下位層は基本的な学習内容(計算の仕方や図形の読み取り等)が定着していない。また、数学に関して苦手意識をもっている生徒が多数おり、学習において自己効力感を得られていない生徒が多いという課題がある。 (2)各種テストの平均点の推移から 9月の期末テストの学年平均は55.3点であった。6月の中間テストの平均と比較すると4.3点の減少となっているが、分布図で見ると0点以上30点未満の層が6%少なくなっている。70点以上層が5%少なくなっていることを考えると、問題の難易度は高かったものの、基礎的・基本的な計算力や図形を読み取る力が全体的に上がったことがうかがえる。 (3)「つくば未来塾」アンケートでの肯定的な回答(1及び2)の結果から「集中して、又は、楽しく学習を進めることができましたか。」という設問では、92.2%の生徒が「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」と答えており、肯定的にとらえている生徒が多い。学習に対して苦手意識はあるが、前向きな気持ちで未来塾に取り組んだ生徒が多いと言える。また、「つくば未来塾に参加してよかったですか。」という設問では、82.7%が肯定的にとらえている。生徒の記述回答からは、チューターに丁寧に教えてもらったことで、チューターによる指導に満足感を得られたことがうかがえる。	・昨年度に引き続き、希望制により未来塾を実施した。約5割の生徒が参加し未来塾を実施したことで、学びの継続と長期休業における学習の習慣化が図ることができた。今後さらに参加者を増やし、自主的かつ効果的な家庭学習の在り方について、研究を行ってみたい。 ・今年度から、チューター活動を自由にし、積極的に生徒と関わりをもってもらおうと促した。初めは戸惑った生徒もいたが、人間関係ができると積極的に質問をしていた。 ・チューターに活動の内容や本校生徒の傾向、対応を事前に伝えたことで、スムーズに学習支援をすることができていた。しかしながら、一部のチューターに、教員の不信を招く言動が見られたため、事前の研修を十分に行うようにしたい。
学園の森義務教育学校	(1)対象:9年生 参加生徒 70名 (2)検証する教科:理科 (3)検証方法:つくば未来塾にほぼすべての日程で参加した生徒12名を対象として、校内で行われる実力テストの結果について検証する。未来塾開始前である第1回と、11月の未来塾終了後の第5回結果において、学年順位での変動を調べる。	本校では、つくば未来塾を7月、11月、1月の3つの期間に分けて行った。それぞれの期間において5日間、合計15回実施した。なお、検証においては11月の未来塾終了時点で実施しているため、合計10回となっている。 ほぼすべての日程で参加した生徒12名を対象とし、このうち、75%にあたる9名において、実力テスト理科の得点の学年順位向上がみられた。このことから、未来塾への参加率が高い生徒は、他の生徒に比べて、理科の成績が向上していると捉えることができる。 特に、理科や数学といった理数科目は、生徒自身による疑問の解決が難しい場合もあり、チューターへの質問が多く見受けられた。チューターは、質問に対して、まず自分で解いてみせたり、その場で生徒と共に考えたりと、真摯に対応していた。学習時間の増加に加えて、そのようなチューターとのやり取りが、今回の検証における当該生徒たちの成績の向上をもたらしたと考える。	・予算の使用について、実施前にしっかりと担当者同士で相談し、円滑な実施に資するようにしたい。 ・チューターによっては、なかなか生徒から質問してもらえない方もいた。はじめに自己紹介の場を設けて、生徒と話す機会を設けたい。 ・前年度の未来塾担当者の異動により、校内での引き継ぎが上手く行われなかった。校内での引き継ぎを適切に行いたい
みどりの学園義務教育学校	(1)対象:9学年40名 (2)検証する教科:国語・社会・数学・理科・英語 (3)検証方法: 定期テスト、実力テストの個人内で比較し、検証する 振り返りの感想による学習意欲の向上や学習習慣の定着について検証する	・本校では、年間7回のつくば未来塾を実施した。参加した第9学年の40名の生徒について、6月から2月にかけて実施した定期テストや実力テストを個人内で比較したところ、約7割の学園生が、直近3回の実力テストにおいて合計点の向上が見られた。このことから、定期テスト前後に設定した学習機会が学園生の学力向上に良い影響を及ぼしたと考えることができる。 ・学園生の振り返りによる感想では、テスト前後実施と個別のニーズに対応した学習方法に約9割の学園生が肯定的な回答をしていることから、つくば未来塾の実施により学習意欲の向上と学習習慣の定着に効果があったと考えることができる。	・学習意欲のある学園生が多く、夏休みの参加人数は非常に多かった反面、本当に補習が必要な学園生への支援が薄くなってしまっているので、実施形態を見直したい。

1 「生徒の学習上のつまずきの解消」に関して

・学習チューターが生徒一人一人の学習課題に寄り添い、向き合うことで、学習上のつまずきを解消することができた。
 ・学習意欲が高く積極的な生徒は、事前に質問事項を整理し、学習チューターに質問をすることで学習上のつまずきを解決するための手立てとなっていた。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	H30	R1	R2	R3	R4	R5
生徒	参加する前よりも学力が身に付いたと思うか。	79.5%	77.6%	82.5%	78.0%	83.2%	81.3%
教職員	生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思うか。	83.3%	82.5%	88.1%	69.0%	81.4%	82.2%

2 「学習意欲の向上」に関して

・つくば未来塾に参加することから得られる様々な人との交流から、学習意欲が向上するきっかけが生まれている。
 ・学習チューターとの関わりの中で、わからない問題が「できた」「わかった」の瞬間があり、学習意欲の向上につながっていると推察することができる。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	H30	R1	R2	R3	R4	R5
生徒	集中して、又は、楽しく学習を進めることができたか。	81.5%	78.3%	90.1%	90.0%	90.8%	93.8%
	取り組んだ教科が以前よりも好きになったか。	72.5%	68.5%	70.1%	59.3%	69.9%	73.2%
	つくば未来塾に参加してよかったか。	80.5%	80.5%	87.4%	85.7%	90.2%	91.0%
	これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになったか。	80.2%	77.5%	85.8%	84.7%	87.6%	85.5%
教職員	生徒は集中して、又は、楽しく学習に取り組んでいたか。	83.7%	85.2%	93.2%	81.8%	94.2%	90.4%
	参加した生徒は以前よりも意欲的に学習に取り組むようになったかと思うか。	74.4%	74.2%	75.6%	72.7%	80.1%	79.5%
	つくば未来塾を実施してよかったか。	78.3%	88.2%	90.9%	74.1%	83.3%	74.7%

3 「学校と地域の協働連携」に関して

・昨年度と同様に筑波大学教職ガイダンスの中で、「つくば未来塾」の事業について説明をさせていただき、筑波大学と連携して実施した。筑波大学関係の学習チューターは79名であり、本事業において大きな支えとなっている。今後も継続的に連携・協力をしていきたい。
 ・学習チューターのアンケートでは、各項目とも前向きな回答をいただいている。「生徒のために、ご自身の知識を伝えたい」と考えている方が多い。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、今後も地域の人的資源の積極的な活用を進めていきたい。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	H30	R1	R2	R3	R4	R5
生徒	先生や学習チューターに教えてもらってよかったか。	82.2%	80.9%	90.5%	86.2%	86.0%	87.6%
教職員	学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だったか。	89.9%	89.3%	88.6%	75.5%	94.9%	89.0%
学習チューター	生徒たちは集中して学習に取り組んでいたか。	95.8%	93.9%	94.2%	93.0%	97.7%	98.9%
	学習支援はご自身のキャリアアップにつながったか。	98.6%	96.1%	91.3%	86.7%	92.1%	91.6%
	学習支援を通じて生徒の喜ぶ姿に出会えたか。	93.4%	92.9%	92.8%	89.8%	97.2%	97.8%
	学習支援にやりがいを感じたか。	94.6%	92.8%	94.9%	90.6%	96.0%	98.9%
	今後もつくば市の事業において、協力していただけるか。	94.0%	93.4%	92.8%	93.8%	95.5%	100.0%

4 今後の課題

・各校の取組について、学校の担当者が情報交換をする場があるとよい。

(学習チューターの確保の仕方、年間計画、効果的な学習教材など)

→来年度、教務主任会等で情報交換を行う予定

・大学生等、交通手段の関係で、参加できる学校が限られているチューターが多い。特に筑波地区、谷田部地区、荃崎地区、みどりの地区に車で活動できるチューターの確保に課題がある。

・事業目標についての評価項目の検討。

→アンケートの見直し【(例)先生や学習チューターに教えてもらってよかったか→自分の疑問や課題が解決しましたかなど】

令和5年度つくば未来塾事業における主な成果と課題

学力向上、つまずき解消についての成果

- ・「つくば未来塾に参加する前よりも学力が身についたと思いますか」の質問において肯定的な意見が多く見られた。【生徒】
- ・定期テストや実力テストでテストの点数が伸びた。【教職員】
- ・未来塾で繰り返し練習問題に取り組んだり、授業では分からなかった内容を個別に対応したりすることで、一人一人のつまずきの解消につながった。【教職員】

学習意欲の向上についての成果

- ・「これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか」の質問において肯定的な意見が多く見られた。【生徒】
- ・つくば未来塾参加後の授業への意欲が増した。【教職員】

実施方法の工夫について

- ・県立の入試問題の数学大問①②の正答率を上げられるよう、基礎的な問題を提示し、分かるまで寄り添うサポートを行った。【教職員】
- ・面談期間の実施では、進路を考え目標が具体化する中での取組となり、生徒は意欲をもって参加することができた。【教職員】
- ・つくば未来塾の学習環境を「仲間と学びあう教室」「一人で集中して取り組む教室」と2つの教室に分けた。学習チューターの得意教科などを示した名札を作成・掲示し自己紹介の時間を取り入れた。【教職員】
- ・部活動のない月曜日やテスト3日前を放課後の学習の場として、未来塾を実施した。
- ・「思考を働かせて解いていく問題」を中心に学習していくよう、あらかじめ生徒に連絡していく必要がある。【教職員】
- ・意欲的な生徒は、事前に質問する問題をピックアップし、チューターに質問していた。【教職員】

課題及び令和6年度の取組について

- ・チューターの急なキャンセルがあった。
→チューター向け事前オリエンテーションの注意事項として、キャンセルの場合には、前もって連絡してもらえるよう伝達をする。【事務局】
- ・チューターだけに活動を任せると騒がしくなってしまう、学習にふさわしい環境がつかれない。職員と一緒に指導にあたらざるを得ない状況となり、負担が増している。職員から積極的に継続するメリットが感じられない、無くしてほしいという意見があった。
→学校にヒアリングを行い、未来塾での活動を少人数指導に変更する等、負担感を減らせる活動方法を提案する。【事務局】
- ・生徒が黙々と自習をしていると声をかけづらい
→未来塾の時間には、分からない問題や疑問に思っていることを解決する場として、事前に生徒にも周知しておく等、実施方法の例を学校に提案する。【事務局】
- ・成果の検証方法が不明確なので、具体的な視点を示してほしい。
→アンケートの質問項目を検討し、検証方法を明確にする。
学力向上、つまずき解消、学習習慣の定着が向上したかどうかを検証できる内容にする。

【事務局】

【様式4-1①】

「つくば未来塾」実施アンケート（生徒用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下に書いてある通りです。

- 1…「当てはまる」
2…「どちらかという当てはまる」
3…「どちらかという当てはまらない」
4…「当てはまらない」

1 「つくば未来塾」に参加することで、これまでわからなかった問題がわかるようになりましたか。

1 2 3 4

2 「つくば未来塾」に参加したことで、学習習慣が身に付くきっかけになりましたか。

1 2 3 4

3 集中して意欲的に学習を進めることができましたか。

1 2 3 4

4 学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか。

1 2 3 4

5 「つくば未来塾」で取り組んだ教科が以前よりも好きになりましたか。

1 2 3 4

6 今後も「つくば未来塾」のように学校以外の方（地域の方や大学生）に教えてもらう機会があると良いですか。

1 2 3 4

7 学習チューター（教室で学習サポートをしてくれた方）の印象を書いてください。

8 「つくば未来塾」に参加してよかったですか。

1 2 3 4

8で回答した、理由を記入してください。

9 「つくば未来塾」に参加しての感想を自由に書いてください。

御協力ありがとうございました。

【様式4-1②】

「つくば未来塾」実施アンケート（学習チューター用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

- 1 学習支援を通じて、生徒たちの学習のつまづきを解消できたと思いますか。
1 2 3 4
- 2 学習支援を通じて、生徒の学習習慣が身に付くきっかけを与えることができたと思いますか。
1 2 3 4
- 3 生徒たちは集中して意欲的に学習に取り組んでいましたか。
1 2 3 4
- 4 今回の学習支援は、ご自身の学びや成長につながりましたか。
1 2 3 4
- 5 学習支援を通じて、生徒たちと楽しく交流できましたか。
1 2 3 4
- 6 今後もつくば市の事業において御協力をいただけますか。
1 2 3 4
- 7 「つくば未来塾」に参加してよかったですか。
1 2 3 4

7で回答した、理由を記入してください。

- 8 今回の「つくば未来塾」で学習支援を行った感想を自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。

「つくば未来塾」実施アンケート（学校用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

1 「つくば未来塾」に参加したことで、生徒たちは学習上のつまづきが解消できたと感じますか。

1 2 3 4

2 「つくば未来塾」に参加することで、生徒たちは、学習習慣が身に付くきっかけを得ることができたと感じますか。

1 2 3 4

3 生徒は集中して意欲的に学習に取り組んでいましたか。

1 2 3 4

4 生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思いましたか。

1 2 3 4

5 「つくば未来塾」のように学校以外の方（地域の方や大学生）に教えてもらう機会は有効だと思いますか。

1 2 3 4

6 参加した学習チューターの印象をお書きください。

7 「つくば未来塾」を実施してよかったと思いますか。

1 2 3 4

7で回答した、理由を記入してください。

8 「つくば未来塾」を実施しての感想及び意見等をお書きください。

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下に書いてある通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

1 集中して、又は、楽しく学習を進めることができましたか。

1 2 3 4

2 先生や学習チューターに教えてもらってよかったですか。

1 2 3 4

3 「つくば未来塾」に参加する前よりも学力が身についたと思いますか。

1 2 3 4

4 「つくば未来塾」で取り組んだ教科が以前よりも好きになりましたか。

1 2 3 4

5 「つくば未来塾」に参加してよかったですか。

1 2 3 4

6 これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになりましたか。

1 2 3 4

7 学習チューター（教室で学習サポートをしてくれた方）の印象を書いてください。

8 「つくば未来塾」に参加しての感想を自由に書いてください。

【様式4-1②】

「つくば未来塾」実施アンケート（学習チューター用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

1 生徒たちは集中して、又は、楽しく学習に取り組んでいましたか。

1 2 3 4

2 今回の学習支援は、ご自身のキャリア・アップにつながりましたか。

1 2 3 4

3 学習支援を通じて、生徒たちの喜ぶ姿に出会いましたか。

1 2 3 4

4 中学校・義務教育学校での学習支援にやりがいを感じましたか。

1 2 3 4

5 今後もつくば市の事業において御協力をいただけますか。

1 2 3 4

6 今回の「つくば未来塾」で学習支援を行った感想を自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。

「つくば未来塾」実施アンケート（学校用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

1 生徒は集中して、又は、楽しく学習に取り組んでいましたか。

1 2 3 4

2 学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だと思いましたか。

1 2 3 4

3 生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思いましたか。

1 2 3 4

4 参加した生徒は以前より意欲的に学習に取り組むようになったと思いますか。

1 2 3 4

5 「つくば未来塾」を実施してよかったと思いますか。

1 2 3 4

6 参加した学習チューターの印象をお書きください。

7 「つくば未来塾」を実施しての感想及び意見等をお書きください。